

平成23年度

# 大磯町教育委員会 の 点検・評価

(平成22年度対象)

大磯町教育委員会

平成23年9月

## 目次

### はじめに

1 教育委員会とは	P 2
2 点検・評価の趣旨	P 3
3 点検・評価の対象	P 3
4 点検・評価の流れ	P 4

### I 教育委員会の活動についての点検・評価

1 平成22年度教育委員会活動一覧	P 5
2 項目別活動状況	P 6
3 項目別点検・評価（内部評価）	P 25
4 学識経験者による評価（外部評価）	P 30

### II 「平成22年度教育委員会基本方針」についての点検・評価

1 義務教育	P 34
2 子育て支援	P 40
3 生涯学習	P 43
4 図書館	P 46
5 郷土資料館	P 49

### III 資料編

1 関係法令	P 52
2 「教育委員会定例会議事録」掲載ホームページアドレス	P 52
3 平成22年度教育委員会基本方針	P 53

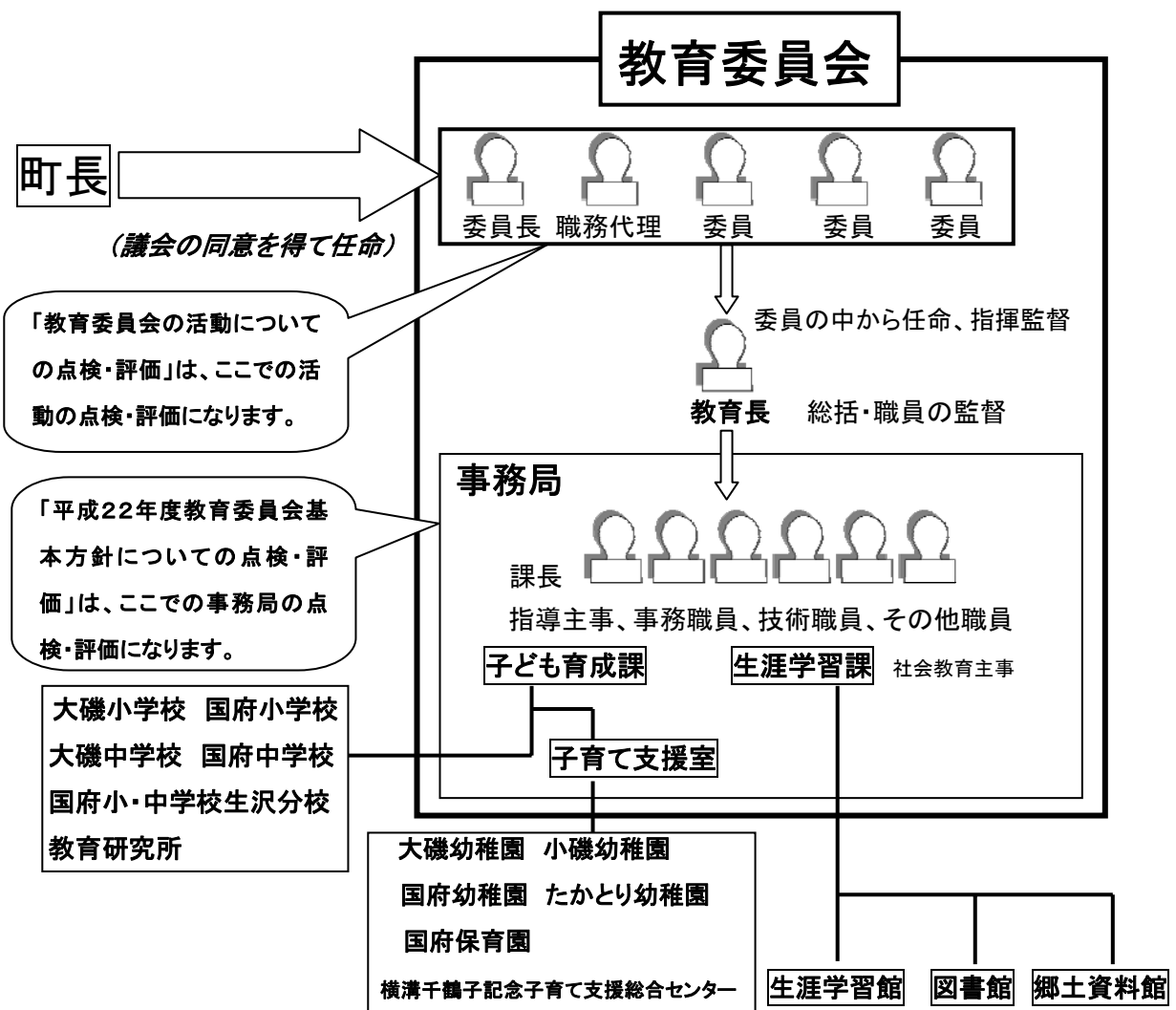
# はじめに

## 1 教育委員会とは

### (1) 教育委員会制度

教育委員会は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の定めにより、教育に関する事務を処理するため、都道府県、市町村等に設置される合議制の執行機関です。

- 大磯町教育委員会は、5人の委員から構成されています。
- 大磯町教育委員は、町長が議会の同意を得て任命します。教育委員の任期は4年で、再任されることもできます。
- 委員長は、委員の中から互選で選ばれ、教育委員会を代表し、教育委員会の会議を主宰します。委員長の任期は1年ですが、再任されることもできます。
- 教育委員会の権限に属する事務を処理するため、教育委員会に教育長と事務局が置かれています。
- 教育長は、委員長以外の委員の中から教育委員会が任命します。教育長は、教育委員会の指揮監督の下、すべての事務をつかさどります。
- 事務局は、教育長の統括のもと、教育委員会の権限に属する事務を処理します。事務局の組織は、それぞれの教育委員会の規則で定められています。



## (2) 教育委員会の仕事

- ・学校その他の教育機関の設置、管理、廃止、教育財産の管理に関すること。
- ・教育委員会及び学校その他の教育機関の職員の任免その他の人事に関すること。
- ・学齢生徒及び学齢児童の就学並びに生徒、児童の入学、転学及び退学の事務、また、幼児の入園、転園及び退園の事務に関すること。
- ・学校の組織編制、教育課程、学習指導、生徒指導及び職業指導に関すること。
- ・教科書その他の教材の取扱いに関すること。
- ・校長、教員その他の教育関係職員の研修、教育関係職員並びに生徒、児童及び幼児の保健、安全厚生及び福利に関すること。
- ・学校給食に関すること。
- ・保育の実施に関すること
- ・子育て支援に関すること
- ・青少年教育、文化財の保護及びその他社会教育に関すること。
- ・教育に係る調査及び指定統計その他の統計に関すること。
- ・教育行政に関する相談に関すること。
- ・その他「地方教育行政の組織および運営に関する法律」に規定されている教育事務に関すること。

## 2 点検・評価の趣旨

平成 19 年 6 月に「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」が改正され（平成 20 年 4 月 1 日施行）、各教育委員会は、毎年、その教育行政事務の管理執行状況について自己点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出するとともに公表することとされました。

本町教育委員会では、法改正の趣旨が教育委員会の責任体制を明確化することにより、効果的な教育行政の推進と地域住民への説明責任を果たすことであると捉え、「教育委員会の点検・評価」を実施し、報告書にまとめました。

## 3 点検・評価の対象

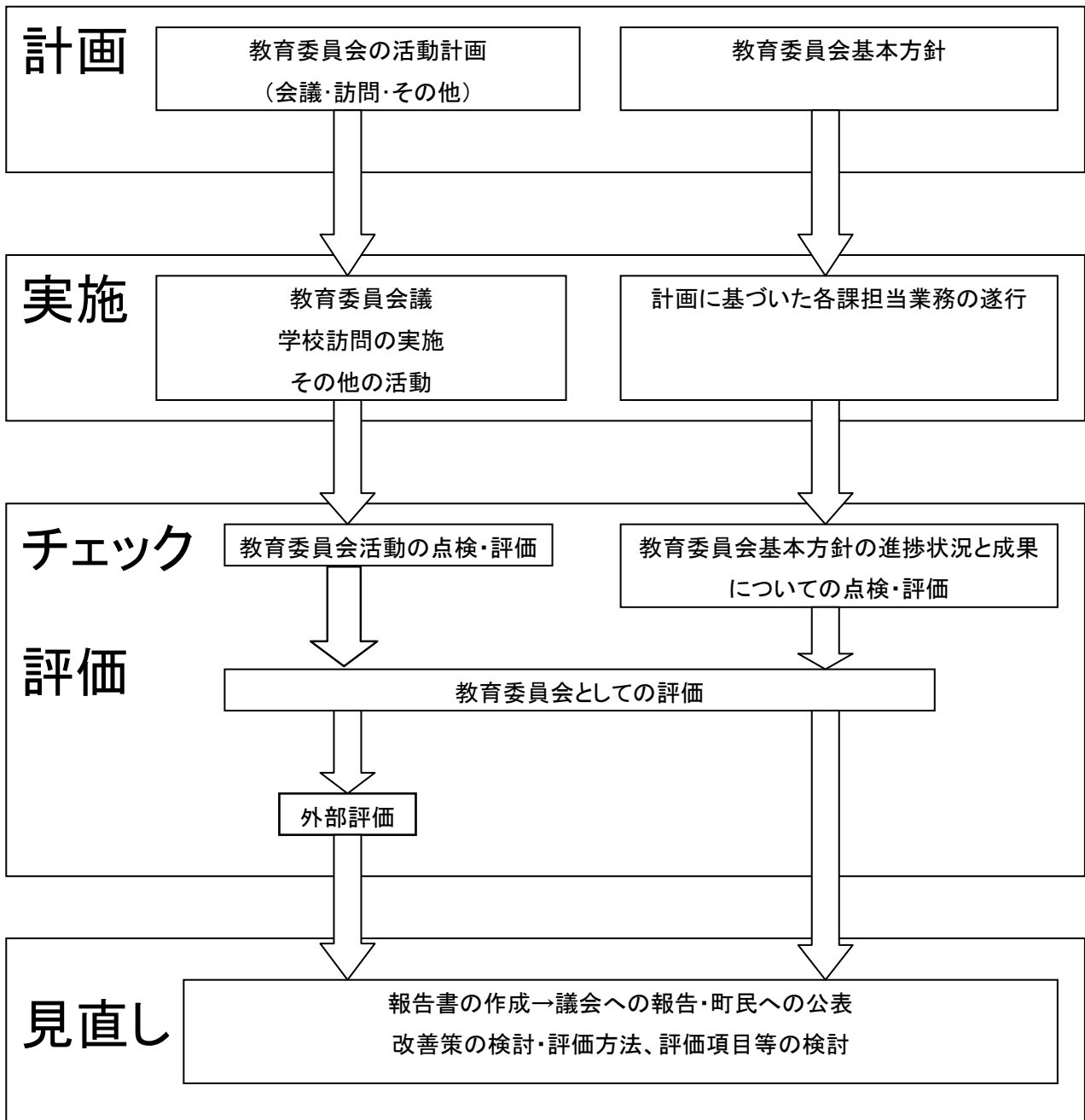
### (1) 教育委員会の活動についての点検・評価

平成 22 年度の教育委員会の活動を項目別に点検し、自己評価及び課題・改善点等についての内部評価を行い、その後、学識経験者からの外部評価をいただき、今後の課題と対応についてまとめました。

### (2) 「平成 22 年度教育委員会基本方針」についての点検・評価

平成 22 年度教育委員会基本方針に掲げられている各分野の目標に対する重点施策の中で、特に重要課題と捉えた施策について、その実施状況を点検し、実施状況及び成果と課題をまとめ、その後、教育委員による評価を行いました。

#### 4 点検・評価の流れ



# I 教育委員会の活動についての点検・評価

## 1 平成22年度教育委員会活動一覧

		内 容 等
教育委員会議	定例会	12回（毎月1回）
	臨時会	2回（12月、1月）
事務連絡調整会議		14回（定例会及び適宜）
意見交換会・懇談会	PTA役員	2回（7月、12月）大磯町立学校PTA連絡協議会役員との懇談会
	地域住民 保護者	5回 大磯中学校「地域ふれあいの集い」（9月18日） 国府中学校「地域フォーラム」（8月28日、8月29日、9月4日、9月11日）
訪問	幼稚園 保育園	3回（7月、9月、2月）
	学校	6回（5月、6月、10月、11月、1月、2月）
	行事等	運動会（体育祭）、文化祭、授業（保育）参観、生涯学習関係事業、研究所関係事業、その他町の行事等
その他の活動		関東甲信越静市町村教育委員会連合会総会及び研修会 神奈川県市町村教育委員会連合会研修会

## 2 項目別活動状況

### (1)教育委員会議

平成22年度第1回定例会〔平成22年4月21日開催〕

事項	番号	案件名
請願審議	請願第1号	教科書の採択について請願
付議事項	議案第1号	大磯町郷土資料館の臨時休館について
	議案第2号	大磯町横溝千鶴子記念子育て支援総合センター条例施行規則の制定について
報告事項	報告事項第1号	平成21年度大磯町立中学校の生徒進路状況について
	報告事項第2号	平成22年度学級編制及び教職員の配置状況について
	報告事項第3号	平成22年度郷土資料館第1回企画展の開催について

平成22年度第2回定例会〔平成22年5月19日開催〕

事項	番号	案件名
付議事項	議案第3号	平成23年度大磯町立小・中学校で使用する教科用図書の採択方針について
	議案第4号	大磯町社会教育委員の委嘱について
	議案第5号	大磯町立図書館協議会委員の任命について
協議事項	協議事項第1号	開校記念日・開園記念日の取り扱いについて
報告事項	報告事項第1号	大磯町立学校等(保育園含む)の敷地内禁煙について
	報告事項第2号	私立高等学校等就学支援補助金制度について
	報告事項第3号	民間幼稚園選考について
	報告事項第4号	おはなしボランティア講座の開催について

平成22年度第3回定例会〔平成22年6月16日開催〕

事項	番号	案件名
報告事項	報告事項第1号	平成22年大磯町議会6月定例会について
	報告事項第2号	民間幼稚園の募集について
	報告事項第3号	大磯町郷土資料館運営委員の委嘱について

平成22年度第4回定例会〔平成22年7月21日開催〕

事項	番号	案件名
付議事項	議案第6号	大磯町立小学校で使用する教科用図書の採択について
	議案第7号	大磯町立中学校で使用する教科用図書の採択について
報告事項	報告事項第1号	大磯町スポーツ振興審議会委員の任命について

平成22年度第5回定例会〔平成22年8月18日開催〕

事項	番号	案件名
付議事項	議案第8号	平成22年9月補正予算における教育委員会予算要求について
	議案第9号	横溝千鶴子記念子育て支援基金条例の制定について
協議事項	協議事項第1号	平成22年度大磯町教育委員会の点検・評価(案)について
報告事項	報告事項第1号	平成21年度教育委員会所管決算見込みについて

平成22年度第6回定例会〔平成22年9月29日開催〕

事項	番号	案件名
付議事項	議案第10号	平成22年度大磯町教育委員会の点検・評価について
	議案第11号	大磯町教育委員会委員長の選挙について
	議案第12号	大磯町教育委員会委員長職務代理者の指定について
報告事項	報告事項第1号	平成22年大磯町議会9月定例会について
	報告事項第2号	中学校部活動の夏の大会結果について
	報告事項第3号	平成21年度「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」結果について
	報告事項第4号	第57回おおいそ文化祭の開催について
	報告事項第5号	秋季企画展「受け継がれる祈りのかたち－六所神社神像特別公開－」について
	報告事項第6号	民間幼稚園選考委員会について

平成22年度第7回定例会〔平成22年10月20日開催〕

事項	番号	案件名
報告事項	報告事項第1号	学校プールの整備について
	報告事項第2号	子ども議会について
	報告事項第3号	第9回図書館まつりの開催について

平成22年度第8回定例会〔平成22年11月17日開催〕

事項	番号	案件名
付議事項	議案第13号	平成22年12月補正予算における教育委員会予算要求について
	議案第14号	大磯町立小学校及び中学校の管理運営に関する規則の一部を改正する規則について
	議案第15号	大磯町立幼稚園の管理運営に関する規則の一部を改正する規則について
協議事項	協議事項第1号	平成23年度教育委員会当初予算要求に係る協議について
報告事項	報告事項第1号	平成22年第2回大磯町議会臨時会について
	報告事項第2号	国府中学校グラウンド改修工事について
	報告事項第3号	町立幼稚園の応募状況について
	報告事項第4号	第57回おおいそ文化祭の実施報告について

平成22年度第1回臨時会〔平成22年12月14日開催〕

事項	番号	案件名
付議事項	議案第16号	大磯町教育委員会教育委員の辞職同意について

平成22年度第9回定例会〔平成22年12月15日開催〕

事項	番号	案件名
報告事項	報告事項第1号	平成22年度大磯町成人式・新成人記念のつどいの開催について
	報告事項第2号	企画展「三井高棟と吉田茂一城山荘と如庵、七賢堂の記憶」の開催について
	報告事項第3号	秋季企画展「受け継がれる祈りのかたち－六所神社神像特別公開－」実施報告について
	報告事項第4号	民間幼稚園選考結果について
	報告事項第5号	平成22年度神奈川県児童・生徒指導上の問題行動等に関する短期調査結果について



平成22年度第10回定例会〔平成23年1月19日開催〕

事項	番号	案件名
付議事項	議案第17号	大磯町立図書館の設置、管理等に関する条例施行規則の一部を改正する規則について
報告事項	報告事項第1号	平成22年大磯町議会12月定例会について
	報告事項第2号	学校プールの整備について
	報告事項第3号	平成22年度大磯町成人式・新成人記念のつどいの実施報告について
	報告事項第4号	大磯町郷土資料館運営委員の委嘱について

平成22年度第2回臨時会〔平成23年1月26日開催〕

事項	番号	案件名
付議事項	議案第18号	平成23年度当初予算における教育委員会予算要求について

平成22年度第11回定例会〔平成23年2月16日開催〕

事項	番号	案件名
付議事項	議案第19号	平成23年3月補正予算における教育委員会予算要求について
	議案第20号	大磯町教育委員会表彰規程に基づく被表彰者の決定について
	議案第21号	大磯町郷土資料館の休館日の変更について
協議事項	協議事項第1号	平成23年度教育委員会基本方針について
報告事項	報告事項第1号	インフルエンザの状況について
	報告事項第2号	企画展「三井高棟と吉田茂一城山荘と如庵、七賢堂の記憶―」の実施報告について

平成22年度第12回定例会〔平成23年3月23日開催〕

事項	番号	案件名
付議事項	議案第22号	平成23年度教育委員会基本方針について
	議案第23号	学校教育法施行細則の一部を改正する細則について
	議案第24号	中地区教科用図書採択協議会の設置について
	議案第25号	大磯町教育委員会関係職員の職の設置等に関する規則の一部を改正する規則について
	議案第26号	県費負担教職員の任免に係る内申について
	議案第27号	教育委員会事務局職員及び教育施設等の職員の人事異動について
報告事項	報告事項第1号	平成23年大磯町議会3月定例会について
	報告事項第2号	平成23年度図書館蔵書点検のための休館について

## (2)事務連絡調整会議

月 日	内 容
4月21日 第1回 事務連絡調整会議	1 郷土資料館企画展報告について 2 年間教育委員会訪問について 3 教育委員会事業予定表について 4 教科書採択スケジュールについて 5 民間幼稚園誘致について 6 開校・開園記念日の休日扱いについて
5月19日 第2回 事務連絡調整会議	1 中学校運動会について 2 平成21年度教育委員会点検評価について 3 教科書採択勉強会について 4 子育て支援総合センター竣工式について 5 子ども手当について 6 国府小学校訪問について
6月16日 第3回 事務連絡調整会議	1 学習参考資料展実績報告について 2 夏のスペシャルお話会の開催について 3 教育委員会の点検評価について 4 PTAとの懇談会について 5 保育園訪問について 6 学校水泳、照ヶ崎プールの利用について 7 子育て支援センターの利用状況について 8 国府中学校訪問について
6月24日 第4回 事務連絡調整会議	1 中学校教科用図書について 2 教科用図書採択関係勉強会
7月1日 第5回 事務連絡調整会議	1 教科用図書採択関係勉強会
7月21日 第6回 事務連絡調整会議	1 教育委員会点検評価について 2 郷土資料館企画展について 3 民間幼稚園選考委員会について 4 夏季企画展「元祖海水浴場・大磯」について 5 幼稚園プール開放について 6 国府保育園訪問について
8月18日 第7回 事務連絡調整会議	1 教育委員会点検評価について 2 秋の行事について 3 幼・保・小運動会について
9月29日 第8回 事務連絡調整会議	1 チャレンジフェスティバルのご案内 2 アカウミガメの産卵と孵化について 3 秋季企画展「六所神社神像特別公開」のチラシについて 4 大磯幼稚園訪問について

月 日	内 容
10月20日 第9回 事務連絡調整会議	1 自分で作る「しかけ絵本」教室の開催について 2 予算説明会について 3 地域フォーラム報告 4 町立幼稚園説明会について 5 生沢分校訪問について
11月17日 第10回 事務連絡調整会議	1 平成22年度学力・学習状況調査結果について 2 人事について 3 大磯中学校訪問について
12月15日 第11回 事務連絡調整会議	1 平成23年度教育委員会基本方針決定までの流れについて 2 預かり保育検討会について 3 P T Aとの懇談について 4 郷土資料館展示リニューアル基本設計委託について 5 町長と教育委員との懇談会について 6 人事について
1月19日 第12回 事務連絡調整会議	1 平成23年度教育委員会基本方針について 2 図書館文化講演会「大磯の神像」の開催について 3 郷土資料館リニューアルプランについて 4 たかとり幼稚園について 5 指導要録の様式について 6 服務規程の様式について 7 P T Aとの懇談会報告書について 8 人事について 9 大磯小学校訪問について
2月16日 第13回 事務連絡調整会議	1 卒業式・文化スポーツ表彰式出席について 2 町立幼稚園における幼稚園休業日の変更について 3 町立幼稚園の定員定数について 4 教育委員会表彰式について 5 人事について 6 たかとり幼稚園訪問について
3月23日 第14回 事務連絡調整会議	1 第2次子ども読書活動推進計画（素案）について 2 平成23年度事業計画について 3 入学式について

### (3)意見交換会・懇談会

#### ①大磯町立学校PTA連絡協議会役員との懇談会

日 時	平成22年7月24日(土)	
場 所	大磯町立国府小学校 第2音楽室	
日 程	開会 あいさつ 自己紹介	10:00
	教育委員会の仕組みについて(教育長)	10:10～
	懇談	10:30～
	閉会	12:00
事務局参加者	教育長、子ども育成課長、生涯学習課長、子ども育成課主幹、子育て支援室長	
大磯町立学校PTA 連絡協議会参加者	各幼稚園・学校PTA本部役員(計22人)	
懇談会の主な内容	<p>① 教育委員会のしくみについて(教育長)</p> <p>② 開校・開園記念日の取り扱いについて(林主幹)</p> <p>○3市は休業日としていない。新学習指導要領で授業時数の確保が必要となっている。          ・PTA運営委員会で話題とした。決まったとおりでよい。休みであっても開校記念日という意識は低い。          ・兄弟で休みがずれるので不便である。          ・移行で算数の学習内容が増えている。限られた授業時数で進むのが早く、子どもたちも大変そう。          ・学習指導要領の標準授業時間数を確保するために子どもたちが楽しみにしている学校行事を削減している実態もある。授業時数も行事も確保するために開校記念日を休業日としないという考え方である。(委員)          ・長期休業も含めて検討していきたい。(委員)          ・校長を通して教員の考えも聞いて判断していく。また学校種を越えた課題にも配慮していきたい。(委員)</p> <p>③ 制服の自由化について</p> <p>○議会や地域でも話題になっている。          ・着ても着なくてもよい標準服という考え方もある。必要なときを判断して着られるとよい。          ・生徒会長が制服のない理由を入学式で説明していた。体操服で登校するときTPOを自分で判断しているか疑問。体操服での通学はだらしがない、メリハリがないと感じる。          ・子どもが好きなのはファッション性の高い制服。そうではない制服だったらどう捉えるだろうか。気持ちの問題。今の状態は悪くないと思う。          ・制服が自由化された経緯について説明。通学バッグも共通だった。不衛生なバッグの自由化が第1段階。制服の不衛生さも話題となってきた。生徒会と先生で話し合いを繰り返した。親子と先生たちの問題なので、じっくり考えていってほしい。(委員)          ・スクール水着やリボン、ソックス等の問題もあった。ノーチャイム、男女混合名簿、卒業式での呼名の仕方…制服だけの問題ではない。人権研究にも取り組んだ。(委員)</p> <p>④ 学校・幼稚園から</p> <p>【大磯小】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・吹奏楽、合唱が盛ん。先生が忙しい。楽器も老朽化。</li> <li>・修繕が必要などきの対応はどうなっているか。</li> </ul> <p>【国府小】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・予算配分について。設備や備品についての予算が少なくて困っている。</li> <li>・バス通学に経費がかかる。補助はできないか。</li> <li>・トイレの臭いに困っている。業者が入っても改善されず、ボランティアが清掃している。</li> </ul> <p>【大磯中】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育予算については町への働きかけをお願いしたい。</li> </ul> <p>【国府中】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校からPTA予備費でカーテン購入を依頼された。基本的には町で購入するもの。</li> </ul> <p>【大磯幼】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校との行事連携がなされていないことが多い。</li> <li>・預かり保育の日には利用希望者が多い。職員の負担が大きい。預けたい日に預かりがない。先生の予定で預かりの日が決まるので専門の職員配置を検討してほしい。</li> </ul> <p>【小磯幼】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・廃園が決まったが、今後の動向について情報は早くほしい。</li> </ul> <p>【国府幼】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・男性の教職員が少ない、いない。増えることを期待する。</li> </ul> <p>【たかとり幼】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新園舎で快適だが、使い始めての課題も出ている。音の問題。保護者の出入り場所に屋根がない。カーテンやブラインドがない。</li> </ul>	

日 時	平成22年12月18日(土)	
場 所	大磯町役場 4階第1会議室	
日 程	開会 あいさつ 自己紹介 報告	10:00
	懇談	10:10～
	閉会	12:00
事務局参加者	子ども育成課長、図書館長、子ども育成課主幹、子育て支援室長	
大磯町立学校PTA 連絡協議会参加者	各幼稚園・学校PTA本部役員(計21人)	
懇談会の主な内容	<p>○ 報告事項</p> <p>① 第1回懇談会での幼稚園・学校からの要望に対する回答</p> <p>② 開園・開校記念日の取扱いについて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・開校記念日は休業日ではないこととする。</li> <li>・授業時数の確保については、次年度さらに検討する。</li> </ul> <p>③私立幼稚園の選考について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相模原市の学校法人小磯学園に決定した。今後、県へ許認可申請。</li> </ul> <p>○ 懇談</p> <p>①「いじめ」問題について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・友達関係のことを言わないので把握が難しい。年齢的にあまりしゃべらなくなっている。親として交友関係を把握するには努力している。</li> <li>・幼稚園の小学校との違いは毎日親が園に行っている点。わからない不安感はない。ただし、親同士でも温度差はある。</li> <li>・学校からの情報提供が少ないように感じる。</li> <li>・平成18年度にいじめ対応のチェックポイントを文部科学省が示した。学校から指導方針等は示されているだろうか。学校が適時保護者に伝えて話し合い等をしたほうが良いと感じる。(委員)</li> <li>・「いじめをなくそう子ども会議」(文部科学省)からの情報提供。いじめられた経験のある子ども達の声。学校が情報を包み隠さず情報提供することが必要。(委員)</li> <li>・クラスのことだけでなく学校全体のことがわかるようなお知らせがあるとよい。いろいろな立場からの情報を知りたい。</li> <li>・養護教諭が担任と家庭訪問をすると聞いた。保健室は子どもの逃げ場にもなる。養護教諭と担任の情報共有は大事だと感じる。</li> </ul> <p>②学校・幼稚園から</p> <p>【大磯中】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・冷水器が壊れている。体育館の電灯が切れている。窓ガラスの破損。掃除用具が足りない。</li> </ul> <p>【国府中】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・冷水器が壊れている。カーテンの取替(PTAで3年の分は替えた)。ガラス破損。</li> </ul> <p>【大磯小】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校から裁断機を買ってほしいと言われた。PTAで買う物ではないと思う。</li> <li>・中学校の完全給食について、コミュニケーションの1つとして弁当を続けたい。</li> </ul> <p>【国府小】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・扇風機設置の予定は？バザーの収益で購入を考えている。(→新規事業であり不透明。各教室2台の予定。)</li> <li>・体育館和室のエアコン故障。暖房が使えない。</li> </ul> <p>【大磯幼稚園】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・預かり保育はさらに利用しやすくなるように、専門職員を雇用してほしい。(→方向性としては、週1回曜日固定で実施、小学校行事にできるだけ対応、専門職員配置。)</li> <li>・次年度以降園児数の増加見込みは？保育室が不足するのではないか。増改築が必要ではないか。(→園区の見直しや定員制を検討する。現段階で増改築は考えていない。)</li> </ul> <p>【小磯幼稚園】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・私立幼稚園選考結果のお知らせがほしい。(→週明けに配布予定)</li> </ul> <p>【国府幼稚園】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・身障者用トイレの整備。車いすでの交流で困っている。</li> <li>・床暖房、エアコン希望。</li> </ul> <p>【たかとり幼稚園】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大雨浸水で休園となった。根本的な対策が必要。(→用水路の問題があり、関係各課と検討していく。)</li> <li>・滑り台がない。</li> </ul>	

②中学校地域フォーラム・地域ふれあいの集いへの参加

日 時	平成22年 8月28日(土)    8月29日(日)    9月4日(土)    9月11日(土)					
場 所	月京会館    生沢会館    虫窪老人憩いの家    中丸会館					
日 程	<table border="1"> <tr> <td>学校長あいさつ</td> <td rowspan="4">各地区ごとで 設定 各地区約90分間</td> </tr> <tr> <td>大磯警察から</td> </tr> <tr> <td>全体討議</td> </tr> <tr> <td>PTA会長から</td> </tr> </table>	学校長あいさつ	各地区ごとで 設定 各地区約90分間	大磯警察から	全体討議	PTA会長から
学校長あいさつ	各地区ごとで 設定 各地区約90分間					
大磯警察から						
全体討議						
PTA会長から						
教育委員会参加者	各教育委員、事務局職員					
学校・地域等参加者	各地区役員、PTA役員、各地区保護者、民生児童委員 保護司、青少年補導員、学校職員等					
懇談会の主な内容	<p>【大磯警察から】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・犯罪発生状況の概要</li> <li>・少年犯罪全般について</li> <li>・携帯電話の危険性について</li> <li>・警察官を語る振り込め詐欺の急増について</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域から見た国府中学校の生徒について</li> <li>・家庭や学校での生活態度について</li> <li>・いじめの問題について</li> <li>・携帯電話やインターネットの使用法について</li> <li>・挨拶について</li> <li>・生徒を取り巻く環境について</li> </ul>					

日 時	平成22年9月18日(土)								
場 所	大磯中学校体育館								
日 程	<table border="1"> <tr> <td>学校長あいさつ</td> <td>14:30</td> </tr> <tr> <td>各グループごとに出席者自己紹介</td> <td>14:40</td> </tr> <tr> <td>グループごとに懇談会</td> <td>14:50</td> </tr> <tr> <td>グループごとの発表</td> <td>15:45</td> </tr> </table>	学校長あいさつ	14:30	各グループごとに出席者自己紹介	14:40	グループごとに懇談会	14:50	グループごとの発表	15:45
学校長あいさつ	14:30								
各グループごとに出席者自己紹介	14:40								
グループごとに懇談会	14:50								
グループごとの発表	15:45								
教育委員会参加者	各教育委員、事務局職員								
学校・地域等参加者	各地区役員、PTA役員、各地区保護者、民生児童委員 保護司、青少年補導員、学校職員等								
懇談会の主な内容	<p>【各グループからの主な話題等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前段で公開した授業の感想、運動会の感想</li> <li>・最近の大磯中の生徒の様子について</li> <li>・大磯中の生徒と地域のかかわりについて <ul style="list-style-type: none"> <li>…左義長、松並木の清掃、災害時の訓練、地域行事と部活動等</li> </ul> </li> <li>・中学生の家庭に対するアドバイスや意見など <ul style="list-style-type: none"> <li>…ボランティア活動の勧め、「関係をつくっていく言葉」等</li> </ul> </li> <li>・文化祭について <ul style="list-style-type: none"> <li>…1日開催について、飲食を扱うことについて等</li> </ul> </li> <li>・体育祭について <ul style="list-style-type: none"> <li>…縦割りについて、子ども主体の行事であることへの理解、クラスの団結等</li> </ul> </li> <li>・その他 <ul style="list-style-type: none"> <li>…思春期を迎えた子どもに対する様々なかかわり方について</li> <li>…携帯電話の使い方について</li> <li>…災害時における中学生の役割について</li> </ul> </li> </ul>								

#### (4) 訪問

##### ① 学校・幼稚園訪問

訪問学校・園名	国府小学校	
日 時	平成22年5月12日(水) 12:30 ~ 16:30	
日 程	給食試食	12:30~13:00
	開会・懇談①	13:10~13:40
	授業参観	13:45~14:30
	懇談②	15:00~16:30
	閉会	16:30
訪問者	教育委員4名、教育長、教育委員会事務局職員	
学校・園懇談会参加者	国府小学校全教職員	
懇談会の主な内容	<p>&lt;学校長あいさつ&gt;  <b>【グループに分かれての懇談】</b>          ・子どもが自分のことを大切と思えるようにするためには、認めることが必要である。          ・コミュニケーションをとり、相手を思いやることのできる子どもを育てたい。          ・授業時数確保のために午後の授業が増えているが、疲れている子どもの姿も見える。          ・幼稚園や保育園との連携がとれるようになってきた。          ・電子黒板の活用については、使えるようになるまでには時間がかかると感じている。          ・電子黒板やテレビ等、新しい機器が導入されたが、パソコンの更新も必要である。          ・教育支援員の人数と時間数が限られているので、工夫して運用しなければならない。          ・オープンスペースについては、学年が集まりやすいメリットがあるが、子どもたちが走ってしまう、ノロウイルスのため嘔吐があったらカーペット交換しなければならない、教師の声が拡散して子どもたちが授業に集中しにくい等のデメリットも出ている。          ・オープンスペースについては、見直しの時期に来ているのではないか。          ・オープンスペースの構造により、学年内は学級の枠を越え教師も子どもも交流が盛んで仲良しである。一方、他学年との交流は少ない。</p> <p><b>【全体懇談】</b>          ・給食調理員の人数は少ないが、米飯の回数増やアレルギー食対応等でやることは増えている。          ・児童用機の痛みが激しく、更新する必要性を感じている。予算の使い勝手がよくなるとよい。          ・幼小中の異校種間連携では、成果が生まれている。          ・本年度の照ヶ崎プールでの水泳実施については、人手がかかる、6月中旬から7月が水泳中心の学習計画になり、他教科への影響が出る等の課題がある。          ⇒ 平成23年度には本年度の反省を生かして計画をしていきたい。          ⇒ できる範囲で効率よく、やれる範囲で最大限の実施をお願いしたい。          ⇒ 平成24年度にはプールを開設できるように準備が進められている。          ・職員室のPCはメールの送受信をするだけで何分もかかる。職員の仕事が効率よくできるようにしてほしい。          ⇒ 来年度は小学校の職員校務用PCを整備できるように予算要求をしていく。          ⇒ (委員)個人PCが使用されている状況では、情報漏えいが心配である。事務局にはPC整備のための努力をお願いする。          ・(委員)保護者は希望や夢を持たせて子どもを学校に通わせている。授業時間数が増える中、休憩時間まで使って先生はよく子どもに向き合ってくれていると感じる。          ・(教育長)①1年生が名前を呼ばれて「はい」と返事していたことが印象的だった。継続的</p>	

訪問学校・園名	国府中学校	
日 時	平成22年6月16日(水) 13:20 ~ 16:45	
日 程	開会・挨拶	13:20~13:30
	授業参観1(5校時)	13:30~14:20
	授業参観2(6校時)	14:30~15:20
	懇談会	15:40~16:40
	閉会	16:45
訪問者	教育委員4名、教育長、教育委員会事務局職員	
学校・園懇談会参加者	校長、教頭、各担当教員	
懇談会の主な内容	<p><b>【担当者から教育活動の概要説明】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題を明確にし、学力向上、不登校対策を本年度の重点として取り組んでいる。具体的実践で目標を達成していきたい。教員の自己観察書にも反映してもらっている。</li> <li>・耐震補強工事が終了したが、内装についてはもう少し感じている。グラウンドはH22設計H23工事と認識している。器物損壊につながる生徒の心の問題に対処が必要である。</li> <li>・教育課程全体構想について(学校要覧P.12)</li> <li>・学校研究「小中連携」は3年目。授業参観等のつながりを継続していく。</li> <li>・ガラス破損が8件9枚、半数は状況が不明。その他生徒指導上の問題が多発している。学校生活アンケートを集約している。授業離脱は少し減ってきたが続いている。どの子も安心して安全に過ごせる学校づくりをしていきたい。</li> <li>・教育相談コーディネーターは授業の担当が多い。教員が不足している状態。課題を抱える生徒が多く、担任が倒れるのも時間の問題だと感じている。スクールカウンセラーの対応が必要な生徒も多い。</li> <li>・校務用PC導入に向けて準備を進めていく。</li> <li>・職員の異動が多く、職員室の雰囲気も変わった。馴染めずに、不安定な生徒が多い。</li> <li>・環境整備に努めたいが、財政的には厳しい。経常経費がやっとなり、維持管理予算が不足している。壊れたらすぐに直す体制をつくりたい。</li> </ul> <p><b>【全体懇談】</b> (教育委員からの声)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒指導上の問題は難しく、特効薬はない。原点に戻り、取組の検証をする必要がある。</li> <li>・教師側の努力で子を引き付ける様子が見られた。道徳の授業で、自分のことを話す担任、ワールドカップを取り上げた担任、横浜死傷事件にふれた担任の話にはリアリティがあり、生徒は一生懸命聞いていた。</li> <li>・授業中の生徒からの「こんにちは」の声には、挨拶とふざけの両方を感じた。</li> <li>・生徒指導上の問題は家庭・本人の問題もあるが、学校にも問題があるのではないかと感じる。教員が打合せを積み重ねることも必要だろう。</li> <li>・保護者や子どもに学校や先生のことについて伝わっているか。結果を伝えるだけでなく、現状のとらえと取り組みについての情報発信をすべきである。</li> <li>・保護者への協力要請は、さまざまなレベルがある。</li> <li>・ごみがいっぱいのクラス、ロッカーが乱れているクラスは落ち着かない。ベランダの排水口のごみ、くつ入れ方等、生徒とともに小さなことを徹底していくことが大切ではないか。まずは教師の共通理解、共通認識が必要である。</li> <li>・子どもはよく思われたと思っている。ほめて育てたい。</li> <li>・夏休み中に校外での問題行動があるかもしれない。行き場を見失う子どもがいらないか、心(教員からの声)</li> <li>・教育相談コーディネーターの後補充教員が不足している。</li> </ul> <p>⇒ 数学の教師を探しているが見つからない。別教科で検討する。ただ人をつければよいの</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭訪問や面接等、教員は非常によく対応している。</li> </ul>	



訪問学校・園名	国府保育園	
日 時	平成22年7月21日(水) 10:00 ~ 11:30	
日 程	開会・あいさつ	10:00
	保育参観	10:00~10:30
	懇談会	10:30~11:30
	閉会	11:30
訪問者	教育委員4名、教育長、教育委員会事務局職員	
学校・園懇談会参加者	園長、各担当職員	
懇談会の主な内容	<p><b>【職員との懇談】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中学生になりいじめの問題が発生しているが、その子どもたちにもこのような時期があったのだと思う。ほめることはほめる、叱ることは叱る、善悪を小さいうちから伝えてほしい。</li> <li>・元気な子どもたちが、兄弟のように仲良く過ごしている。ベテランが多く、スタッフにも恵まれている。7時から19時までの保育時間を7.5時間勤務のローテーションで対応している。年長児は3歳、4歳児のお世話をし、よいお兄さん・お姉さんのモデルとして成長している。(園長)</li> <li>・家庭－仕事－子育てとトータルサポートが必要なケースもある。本年度は防犯マニュアルの見直し作成を研究する。(園長補佐)</li> <li>・保育園には一斉の休みがなく、夏も変わらずに生活している。暑さが厳しい。(保育士)</li> <li>・あまりにも快適でいい環境にはおかない方がよい。コントロールされている環境で育つことのデメリットも考えなければならない。体力や精神力など、その子に身につけてほしい能力が育たない。8月も通っているのは大変だと思うが、自然の風が心地よいというような感性も育てたい。</li> <li>・暑すぎるというのは保護者からの声か？子どもは暑がっていない可能性も考えられる。ある程度自然な方がよいのではないか。</li> <li>・園では、日常生活で学ぶことをいろいろ教えてもらっている。楽しくて帰りがたがらない子どももいる。</li> <li>・小学校で生活科が始まるが、集団の中でルールを守ること、発表すること、聞くことが大事で、就学前の指導も重要である。</li> <li>・保育園で親と一緒に過ごす時間よりも長い時間を過ごしている。友だちと仲よく遊び、互いを尊重することを今後も教えてほしい。</li> <li>・いろいろな保護者がいて、要求もいろいろであるが、困ったことがあると、園長がよく職員の話聞いてくれる。その日のストレスはその日のうちに解消するようにしている。(保育士)</li> <li>・土曜日の保育は7時から18時で、利用者は20名程度。(保育士)</li> <li>・保護者の就労先はそれほど遠くない。(保育士)</li> <li>・3歳までは「愛の時代」…人を信頼することを学ぶ。3歳から5歳は「戒律の時代」…ルールや約束を学ぶ。社会性を学んでいく。自分も大事、友だちも大事。ダメなものはダメと教えるのに理由はいらない。良いこと、悪いことの区別を保育園のこの時期に養ってほしい。</li> <li>・道具や材料が豊かで、今の子どもたちは幸せだと感じた。</li> <li>・「見て、見て」と大人に報告する態度からは、人への信頼があるのだと理解した。保育園での楽しそうな子どもたちの姿を、小・中学校へ大切に、厳しく育てていきたい。</li> </ul>	

訪問学校・園名	大磯幼稚園	
日 時	平成22年9月29日(水)13:15～15:20	
日 程	開会	13:15
	保育参観	13:20～14:00
	職員との懇談	14:20～15:20
	閉会	15:20
訪問者	教育委員4名、教育長、教育委員会事務局職員	
学校・園懇談会参加者	園長、全職員	
懇談会の主な内容	<p>〈開会挨拶〉          〈園長挨拶〉  <b>【大磯幼稚園の保育実践について】</b>          ～教頭より概要説明～</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・職員全員での協力体制を大切にしている。</li> <li>・海山を生かした実践。親子の磯遊び(北水学芸員からの解説)、散歩(高田公園、横穴墓など)などの活動の中で年長児が年少児の面倒をみる姿があり、異年齢の関わりも深まっている。</li> <li>・その他、Pの行事、ママの会のボランティアによる左義長のお団子作り等もある。</li> <li>・相談支援チームによる巡回相談。配慮の必要な園児に対するアドバイスをSAから聞くことで、先生方は関わり方の参考になり、幼稚園教育に生かすことができる。</li> </ul> <p><b>【懇談】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者への指導は、どのように行っているか          →豊かな時代に育った20代～30代の親が多い。送り迎えのときに各担任から話をしている。教頭が機会をみて、人間関係の基礎作りや担任が言いにくいことなどを言っている。</li> <li>・教室の掲示作りには、どのぐらい時間がかかるか。          →担任が、家に持って帰ることもある。預かり保育のある日には、4時過ぎてから作業を行う。誕生カードで2日、子どもの作品が入ったもので1～2日。</li> <li>・小学校との交流の様子は…。          →昨年度、県からの幼・保・小連携についての研究委託を受けていたので全学年と交流した。運動会への招待、生活科の学習・発展としてリースプレゼント、音楽会の歌の披露、入学前の交流(高田公園で遊ぶ)など行った。小学校の見学を行うことで年長園児の不安が減少した。様々な異年齢との関わりが有効。今年度は、運動会への招待と生活科の学習の中での交流計画がある。</li> <li>・保護者のお手伝いは、どんなことで来られるか。          →整備、遠足付き添い等(P役員、交通委員の方)</li> <li>・お話会が9:30～あるが、どのような方が来られるか。また内容は…。          →ボランティアの方(在園・卒園児の保護者:計8名)          聞く耳を育てる機会として毎月実施(内容はボランティアの方が検討)。学期に1回、ホールにて全員にパネルシアターなどを読み聞かせする。</li> <li>・活動・帰りの会・お話等聞くときには、一人ひとりの子ども達の目が向いていた。一人ひとりに応じた指導をされているので、その積み重ねがある。</li> <li>・園全体の組織が上手くいっている感じを得た。教室の掲示、リサイクル等を生かしているところがよい。</li> <li>・ロッカーも整頓されていてきれいだった。環境がよければ、人も育つ。</li> <li>・大きな行事運動会を終えて、先生方にも成長が伝わり充実していると思う。年間行事が多く、盛りだくさん。園外へ出ることも多い。</li> <li>・先生方が、温かく見守っている姿が見られた。先生方が純粋な気持ちで育成・教育している。</li> <li>・発信という手段としてホワイトボードがとてもよい。一人ひとりの担任の気持ち・人柄・思いが。</li> <li>・園全体・教室が、とてもきれいで整然とした環境。とても感心した。</li> <li>・子ども達が目を輝かせて先生の話聞いていた。1日に1～2回静かな実感を味わわせる体</li> <li>・配慮の必要な子の対応:配慮の必要な子を中心として子ども同士の関わり合いの中で、い</li> </ul>	

訪問学校・園名	国府小・中学校 生沢分校	
日 時	平成22年10月20日(水) 13:10～16:00	
日 程	開会・あいさつ	13:10～13:20
	授業参観	13:20～14:05
	懇談会	14:30～15:55
	閉会	16:00
訪問者	教育委員4名、教育長、教育委員会事務局職員	
学校・園懇談会参加者	全教職員	
懇談会の主な内容	<p>&lt;学校長あいさつ&gt;          &lt;担当者から教育活動の概要説明&gt;  <b>【全体懇談】</b>          ・中2の指導が少し大変そうに感じられたのに対して、中3は落ち着いて授業に取り組めていた。進路の状況はどのようになっているか。          ⇒ 昨年度は全日制に進学した5名全員が公立であった。1名が併願で私立受験を予定したが、最終的にはその必要はなかった。中3の落ち着きは、入所期間の長さ、進路、リーダーシップ意識等の影響が考えられる。          ・入所を断ることはあるのか。          ⇒ 児相と学園とのやりとりの中で入所者が決まってくる。基本的にはおおいそ学園入所の意味を理解し、成長の可能性のある子が入所対象となる。          ・入所の背景にあるのは本人の問題が多いか、家庭環境の問題が多いか。          ⇒ 家庭の問題が背景にあることが多い。ここでは衣食住が保障され、周りの大人からあたたかい声かけ・称賛をもらって心が安定していき、子どもたちは改善に向かっていく。しかし、再び地域に戻ると、状態がまた戻ってしまうことも多い。          ・資料を見ると、生徒間暴力が多い。体格のよい生徒が教師に向かってくることはないのか。          ⇒ 問題が発生してからの事後処理的な消極的生徒指導よりも、教員と生徒の人間関係づくりや暴力行為の未然防止のための積極的生徒指導を心掛けており、生徒が一線を越えてくることはない。          ・退所後に生徒から連絡をしてくるようなことはあるか。          ⇒ 措置の停止は1か月ごとの更新となるため、その都度連絡をとることになる。また、学校訪問を行い、励ますこともある。          ・発達障害の生徒もいるようだが、いつの段階で把握されているのか。          ⇒ 入所時の判定で判明することもあるが、入所前の児相での検査で把握される。          ・本来の学校らしい学校だと感じた。生徒のモチベーションをどのように保っているか。          ⇒ 「今持っている課題を克服して戻ろう」が基本である。学業や活動で、見通しをもち頑張らせる。ほめて、励ます。          ・開校8年になるが、年々環境が向上している。人が環境をつくる。環境が人をつくる。環境がよくなると、生徒も落ち着いてくる。これは、分校でも本校でも同様である。今は本校よりも環境がよいのではないか。          ・授業では、先生が子どもとじっくり向き合い、現状の能力に合わせて、個々に工夫しながら指導している。子どもはよく話を聞いている。だから「分かる」。分かる喜びを感じる。これは分校に来て初めて実感していることかもしれない。それが信用できる大人もいるんだという思いになり、そういう人の話だから聞く。聞くから分かる。プラスの循環になっている。          ・地道な営みが子どもを変えていく。子どもの姿を見て、先生の努力が見える。          ・これからも、より質の高い事業、学級経営を目指してほしい。自立に向けた教育の営みを続けたい。          ・今日は飾っていない先生方と話ができて、分校についての理解を深めることができた。          ・本日のような来客も、人から認められる機会として子どもたちへの励ましとしてほしい。  <b>【教育委員長職務代理者あいさつ】</b>          ・町の美化キャンペーンや地域(町)の文化祭に参加してもらえるのがありがたい。          ・目標は一つであり、分校が学園と連携することは重要である。          ・授業からは先生の熱意が伝わってきた。それぞれ違う個性で真剣に子どもたちと向き合っ</p>	

訪問学校・園名	大磯中学校	
日 時	平成22年11月17日(水) 13:10～17:00	
	開会・あいさつ	13:10～13:20
	授業参観1(5校時)	13:25～14:15
	授業参観2(6校時)	14:25～15:15
	懇談会	15:30～17:00
	閉会	17:00
訪問者	教育委員4名、教育長、教育委員会事務局職員	
学校・園懇談会参加者	校長、教頭、各担当者	
懇談会の主な内容	<p><b>【学校から】</b>  (学校長)  ・生徒、職員ともに「楽しくなければ学校でない」と思えるように。  ・3年生本来3クラスのところ、少人数加配校内努力で4クラス。  ・学校研究「授業改善の工夫」…グループ教科部会、相互授業参観。  (教育課程) (生徒・指導) (進路・支援) の各グループ  ・平成24年度から選択教科がなくなり週29時間、現行より1時間増える。  各教科で完全実施に向けて準備中。  ・朝の登校から正門で管理職や生徒指導担当が声かけ見守り。  ・生徒会活動は、話し合い活動の充実を目標に掲げた。  アドバイスをしながら成長を促している。  ・人間関係づくりの難しい子が増えてきている。  ・ライフチェックを年間数回実施、個別指導や情報の共有など職員のチームワークが良い。  ・1年職場訪問、2年上級学校訪問、3年個人で具体的進路のキャリア教育。  ・学校外連携(ネット会議等)の充実。  ・SC、心の教室相談員←小さな悩みを拾ってくれる(担任とのつながり)。  (保健・安全) (管理・情報) の各グループ  ・松並木清掃に加え、今年は朝ボランティア校内清掃実施。  ・防災訓練(1年オリロー体験、2年煙体験、3年消火体験)  ・防災…中学生がお手伝いできるよう授業等で指導。  ・体育館の放送不調(マイク途中で切れる)。  ・机を修理しているが…足りない。</p> <p><b>【懇談】</b>  ・授業落ち着いてよく取り組んでいた。←先生方の熱意、日々の努力。  ・日課表・打ち合わせは?→月、水、金曜日の昼に10分～15分。  ・グループ教科部会は指導技術向上につながる。続けて欲しい。  ・学年があがるごとに自制心が身についている。  ・中学に入ると急に難しくなったと言われるが、中学だけの問題でなく小学校からの積み重ねではないか?小学校への申し送り等は?  →小中連携は、研究所部会等各教科で行っている。  もちろん小学校へも情報は伝えているが、責任の押し付け合いは本意ではなく意味もないので、中学では中学の中で責任を持ってできるようにして送り出したい。  ・英語、社会、体育で教科ボランティア。聴講生70代2名、50代1名。  ・教室環境←ごみが落ちていない。当たり前のことだが、積み重ねの指導によるもの。  汚いのは嫌という感覚を具体的に生徒が持つこと。  ・電子黒板…前回も社会と理科で使用。  ・子どもの顔を浮かべながらプリントなどの教材作りが良い。  ・防災…中学生が保護される立場から保護する立場へ。  中学生のパワーに期待しているので意識付けを続けて欲しい。  ・3クラス→4クラスにしたため教員の負担が増えているが頑張っている。  ・ノートのとり方について指導されているか?  →1年生の最初や学年初めに各教科で指導されている教科が多い。  ・来た時に入口で挨拶をしてくれた。安心感の持てる学校。  ・チームワークが良い。教員間の風通しのよさ。  ・落ち着いているからこそ、細かい部分の助言が出来ている。</p>	

訪問学校・園名	大磯小学校	
日 時	平成23年1月19日(水) 12:20～16:50	
日 程	給食試食	12:20～13:00
	開会・あいさつ	13:05～13:35
	授業参観1(お昼のモジュール)	13:35～13:50
	授業参観2(5校時)	13:55～14:40
	概要説明	15:05～15:20
	懇談会	15:30～16:30
	閉会	16:40
訪問者	教育委員4名、教育委員会事務局職員	
学校・園懇談会参加者	校長、教頭、総括教諭、学年主任、養護教諭、栄養教諭、教育相談コーディネーター 事務職員	
懇談会の主な内容	<p><b>【職員との懇談】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭への食育の啓発活動は… → 給食だよりや献立表の裏面空きスペースにいろいろな記事を書いている。</li> <li>・1年生当初では、保育園・幼稚園の出身ということで差はあるか。 → 差は、ないと感じている。(1年担任)</li> <li>・職員の方へ、勤務時間での多忙化は、どんなことが原因だと思うか。 → 教職の仕事は、自分の納得のいくまで行い、切りがない仕事である。多様な児童・保護者への対応として人的な配置を考えてほしい。シュレッダー機を増やす等施設面の効率化を考えてほしい。ライフスタイルに合わせた仕事を考えてほしい。先生方ががんばっているので、いろいろな心配な面もある。不易と流行を考えたい。精神的な面では、24時間。自分たちの取組を見直す時期なので、これからの取組を効率的に考えていきたい。</li> <li>・町内の中学校の事は、町のこととして、深刻な問題として受け止めてほしい。身近な教訓として考えてほしい。中学校との連携はどのようになっているか。生徒指導面等で連携を強めてほしい。 → 卒業生の支援シートを作成。中学校の教育相談コーディネーターと連絡を取り合っている。担当者の連絡協議会等で話題にしている。中学校から先生が参観に来ている。また卒業後前6年担任が話しに行く機会がある。ケース会議には、中学校の教育相談コーディネーターも参加してもらっている。</li> <li>・授業参観、話し合い等みんなで一人ひとりに具体的にきめ細かく対応してほしい。教員同士がよく話し合っている。臨機応変に対応できるように、小・中の連携を構築してほしい。</li> <li>・中学校より授業をみてほしいと声かけがある。児童が安心して中学に行けるように環境作りを考えていきたい。</li> <li>・下駄箱がきれいだった。授業が安心して参観できた。ロッカーも整頓させていたので、さらにきれいになるように心がけてほしい。</li> <li>・教室環境作りができるような指導がされている。1年生の教室には、どのように整理するか掲示資料で説明があるなど工夫があり、徹底している。</li> <li>・体育の授業も落ち着いていた。日頃の指導があつての行動。</li> <li>・アンケートより「施設・備品…適切に活用されている」の項目の割合が低いけどどのようなことか。 → マット・理科室の備品等</li> <li>・学校は、何が必要なのか、継続して予算要望をだしてほしい。学校全体として優先順位を検討してほしい。</li> <li>・地域の方の関心が高い。教室・校内環境を整えるように心がけている。美化・花ボランティアの方がよくやってくれる。子ども達の心情にいい影響を与えてくれる。学校とのよい関係を心がけたい。</li> <li>・とてもきれいに環境がされている。教室環境がきちんとしていて素晴らしい。子ども達への指導</li> <li>・授業参観の感想は、話を聞くことはできている。話し合いの場面を見せてほしかった。</li> <li>・来年度、時間数増になる。先生方の負担が増えるが、頑張してほしい。</li> </ul>	

訪問学校・園名	国府中学校	
日 時	平成23年2月8日(火) 16:30 ~ 18:00	
日 程	職員との懇談	16:30~18:00
訪問者	教育委員4名、教育委員会事務局職員	
学校・園懇談会参加者	全教職員	
懇談会の主な内容	<p><b>【委員長挨拶】</b>  ・教育委員は、国府中学校が安全な教育環境、生徒と先生が安心して毎日過ごせる環境であってほしいと願っている。共に考え、検証し、知恵を出し合っていきたい。率直な話を聞かせてほしい。</p> <p><b>【教員から】</b>  ・3年は入試で不安定。2年は落ち着いてきた。1年は学年の取組を進めているが、授業は落ち着かない。授業の取組をしっかりしていきたい。  ・相変わらず大変である。協力しないと授業が成立しないことを伝えている。  ・5~10年前より丁寧にやっているが、それでも通用しない。  ・保健室来室は、けがや病気によるものが多かったが、相談も多かった。  ・子どもたち同士で、自分たちでなんとかしなきゃという声が聞こえてくる。正しさをほめて支えていきたい。  ・保護者にも来校を求め、継続して指導をしている。  ・以前は、やったことを認めていなかった生徒が、遡って認めるようになってきている。  ・いい変化の表れている時期であるが、安心せずに対応していきたい。  ・クラス代表役員が話し合っ、清掃の時間に清掃ボランティアをしてもらえることになった。  ・授業離脱している生徒に声をかけるにも、その生徒の状況を判断し、正しく声かけをする必要がある。時には声かけでなく、そばにいてあげるだけでよいこともある。  ・スキンシップが足りていない。心のふれあう、心のスキンシップで成長すると思う。  ・やっさと認めたことは解決に至った。やっさと認め始めている。自分でやったことを自分で直す流れになってきている。  ・言葉で言うのと、見るのでは感じ方が違う。ぜひ何度か生徒を見てもらいたい。見れば話を聞いた時の感じ方も違ってくると思う。  ・チームワークを大切に、情報交換をして対応している。  ・教師も一緒に行動することが大事。きれいで落ち着いた環境をつくりたい。  ・集団になると思わぬ行動をする。大半はまじめで、勉強をがんばろうとしているのではないか。  ・新年度を気持ちよく迎えられるように、修繕費について配慮してほしい。  ・問題を起こす子ばかりに目を向けていたことを反省する。  ・勉強ができなくて、わからなくて授業から抜け出す子もいる。個別指導では素直に学習する。取り出し指導ができるような人員や場所がほしい。  ・長期休業中に破損箇所の補修や環境整備をすることが多いが、校務作業員が非常勤で不在となる。職員作業で対応しているが、サポートがほしい。  ・先生が変えようとする姿が伝わり始めてから、子どもが変化している。</p> <p><b>【教育委員から】</b>  ・新聞に出たことをきっかけ、転機としてとらえてくれた先生が多いと感じた。  ・学校に来る途中、あいさつのない生徒がいて、大人不信、大人への反発があるのかと考えた。  ・地区の年度末の会合では国府中学校のよくない噂を耳にする。先生と生徒が向かい合えれば現場はつくづく大変だと思う。  ・この状況が悪い伝統となって続くことを危惧する。良い、悪いをはっきり教えることが必要。  ・極力、壊れたらすぐに直すとよい。ブロークンウィンドウ現象がある。  ・保護者もいいことを聞けば安心する。生徒もいいことをいいと認識する。  ・保護者にどういうことを伝えていけばよいか、考えていきたい。教育委員としても発信していきたい。  ・職員会議で、全体で話す機会をつくってほしい。毎月やってほしい。  ・先生一人一人が見つけた対応やよい兆候を共有して、小さいことを積み重ね、子どもとの成長を促していきたい。  ・先生同士、風通し良く、仲間と一緒に取り組んでほしい。教師集団のつながり、人間関係のよさを伝えてほしい。  ・子どもたちの期待に応えられるように改善をしてほしい。本質的には勉強をしたい子がたく</p>	

訪問学校・園名	たかとり幼稚園	
日 時	平成23年2月16日(水)13:15～15:30	
日 程	開会	13:15
	保育参観	13:20～14:00
	職員との懇談	14:20～15:30
	閉会	15:30
訪問者	教育委員4名、教育委員会事務局職員	
学校・園懇談会参加者	園長、全職員	
懇談会の主な内容	<p>【たかとり幼稚園の保育実践について】</p> <p>【懇談】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・共働きの家庭が多いが、お弁当について保護者の声はあるか。 →便利なものがあるので、レンジの活用をしている。見た目はよいが、栄養のバランスは取れているか心配している。</li> <li>・家庭がなかなか協力してくれないようなことはあるか。 →協力的な家庭が多い。行事の後には、保護者の声を聞くようにしている。何かあったときには、真摯に聞き、改善するようにしている。</li> <li>・どのような対応をしたかが大切だと思う。きめ細やかな対応が重要。小・中学校につながってほしい。</li> <li>・3歳児の対応の大変さが分かった。家庭の父親・母親の役割をすることも必要なので大変。学年があがると成長の姿が見られる。ペースの部分になっている幼児教育の大切さが分かった。 →保護者への教育も必要。担任や教頭から、園児のよさを朝や帰りの時間に話すことができる。信頼関係作りに努めている。</li> <li>・チームで子ども達を育てている感じがとてもよい。道路(駐車場の仕方、送り迎えの時間等)の使い方についてどのようにしているか。 →はじめのうちは、団地から見られている感じがしたが、園のルールを保護者はよく守っている。臨時的な送り迎えの申し出はある。車のことについての対応は、とても気がついた。 →園庭に土埃が立ちやすいので水まきを心がけた。 →いろいろな特性をもった園児が多い。3歳クラスが年中になったときに環境が変わるので、是非支援員の方を付けてほしい。</li> <li>・いろいろ考えて配置に苦慮している。</li> <li>・補正で予算を付けられるように努力したい。一人にかかる時間数が増えているのだが、幼・小・中と合わせて必要な面を付けている。必要なことは、言ってほしい。調整していきたい。 →子ども達の安全を考えていきたい。是非支援員の時間増をお願いしたい。</li> <li>・成長によって自我も出るので大変になるかもしれない。</li> <li>・年少・年中の大変さが伝わってきた。3・4・5歳は、とても大切な時期だと思う。先生方の責任の重い。一緒に考えながら、ときには一人で考えながら、体で覚え成長しながら、教え込むなどメリハリが大切。年長は、もうすぐ1年生という先生方の努力が伝わってくる。小1プロブレムがなくなってくるように思う。</li> <li>・年長組の教室に習字で『うさぎ』と書いた掲示物が、あったが、自由に書いたのか？ →絵の具の筆で自由に書いた。</li> <li>・習字は、園児の様々な思いが伝わっていてよい。支援員が必要ということが、分かったので、協力したい。</li> <li>・トイレトレーニングは、家庭と話し合っているのか？ →家庭と協力しながら行ってきた。お母様の出産に重なってしまった園児は、断られたが、周</li> <li>・小さい頃からの積み重ね、親と子で育っていくことが必要だと思う。</li> <li>・食育が言われている。野菜を焼くことに感動がある。様々な体験もできる。(焼き芋等)例え</li> <li>・チームワークのよさを感じた。それぞれの担任から指導理念が伝わってきた。環境を生かし</li> </ul>	

②行事等

行事名	月 日(曜)	対象園・学校
運動会・体育祭	6月5日(土)	国府中学校
	6月5日(土)	大磯中学校
	9月17日(金)	国府小・中学校生沢分校
	9月25日(土)	大磯・国府幼稚園
	10月2日(土)	小磯・たかとり幼稚園
	10月11日(月)	大磯・国府小学校
文化祭・保育発表会等	10月23日(土)	大磯中学校文化祭
	10月23日(土)・24日(日)	国府中学校文化祭
	11月23日(火)	おおいそ学園(生沢分校)収穫祭
	12月4日(土)	国府保育園お楽しみ会
	12月15日(水)	大磯・たかとり幼稚園保育発表会
	12月16日(木)	小磯・国府幼稚園保育発表会
卒業式証書授与式 ・修了証書授与式	3月9日(水)	大磯・国府中学校
	3月11日(金)	国府小・中学校生沢分校
	3月17日(木)	小磯・国府幼稚園(AM)
		大磯・月京幼稚園(PM)
	3月18日(金)	大磯・国府小学校
生涯学習	10月3日(日)	OISOチャレンジフェスティバル
	10月23(土)	第57回おおいそ文化祭
	11月21日(日)	第9回大磯図書館まつり
	1月10日(月)	成人式
	1月16日(日)	第57回大磯一周駅伝大会
その他行事等	8月3日(火)	大磯・二宮町教育研究所教育講演会
	11月6日(土)	小・中学校音楽会
	11月13日(土)・14日(日)	子ども作品展
	1月29日(土)	英文朗読大会
参加体制	教育委員・事務局職員	



## (5)その他の活動

### ①関東甲信越静市町村教育委員会連合会総会及び研修会

日時	平成22年5月28日(金) 13:30 ~ 14:30
場所	東京ベイホテル東急 インペリアルホール
参加体制	教育委員長、教育委員長職務代理者、事務局随員
内容	13:30~13:55 開会式 14:00~14:30 総会 平成21年度事業報告・決算報告 平成22年度事業計画(案)・予算(案) 会長、副会長及び監事・理事の選出等 14:45~15:45 研修会 演題「自分という人生の長距離ランナー」 講師:スポーツジャーナリスト 増田 明美 先生 15:50~16:00 閉会式

### ②神奈川県市町村教育委員会連合会研修会

日時	平成22年11月5日(金) 13:30 ~16:00
場所	小田原市生涯学習センターけやき ホール
参加体制	教育委員4名、教育長、事務局随員
内容	13:45~14:00 開会・挨拶 14:00~15:30 研修会 演題「困難に直面する子ども 若者を放置しない社会をめざして」 講師:放送大学教養学部 宮本 みち子 教授 15:30~15:45 質疑応答 15:45~16:00 閉会・事務連絡

3 項目別点検・評価（内部評価） 平成22年度対象

(1)教育委員会議

満足 A 概ね満足 B 努力が必要 C

【目的】 「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」及び「大磯町教育委員会規則」に則り、大磯町の教育行政が円滑に運営されるために必要な事項を協議する。			
評価項目	評価	評価の主な根拠	課題に対する改善点等
教育委員会議が、法令等に沿って、その開催にあたり会議の予定、議案を周知し、議事内容を公開するなど、適切に実施されたか	A	法令に則り年度初めに計画された定例会は開催され、臨時会も必要に応じて適宜開催された。その開催にあたり会議の予定を町広報誌やホームページを通じて周知し、会議の結果の議事内容も公開した。一部議案書の添付資料に記載違いがあったのは残念だった。	資料の記載違いがないよう、事務上留意する。
教育委員会議が、適正な意思決定機関になっているか	B	付議事項は慎重に審議され、特に重要な案件は時間をかけ活発な議論をしてきたので教育委員会として意思決定ができたと考えられる。しかしながら、議案審議などは型どおりの進行であり、真に課題解決の場になっていない。予算の審議は町の財政状況もあり不本意な決定をせざるを得ない場合もあった。	地域住民との交流・懇談や学校訪問の中から得られた生徒指導や学校施設などソフト、ハード両面に係る真に重要な課題についてもっと議論、深堀させることが必要であり、これまでのやり方からの脱皮を志向すべきである。予算の確保については、事前の勉強会を増やし、「教育ビジョン」の実現に向けて町長をはじめ関係部局等とも早期から必要性・重要性について理解を深めて積極的に進める。
教育委員会議が、教育行政における今日的な課題に対応しているか	B	今日的な課題である待機児童ゼロ化、施設面や生徒指導面の課題など、国レベルの内容や学校等の訪問から出た課題に粘り強く対応し、一定の改善を図ることができた。予算等に反映できたものも多々ある。しかし、一方でこれらの課題について予算的に対応が不十分なところや課題の把握に時間がかかったところもあった。	臨時の学校等の訪問を細かく行うなど、学校の抱える課題を把握する機会を増やし、解決策を話し合う。教育予算の確保については、事務局と一体となって取組むことにより町長や町部局へ重要性・必要性の理解を得る。
教育委員会議が、地域住民にとって身近なものとなっているか	B	会議には、身近な話題では傍聴者もいるが、教育委員会議の存在や開催が町民に浸透しているようには思えない。また、内容がどのように反映されるのか理解しにくいところがある。保護者や地域との積極的な交流・懇談会を実施し教育委員会活動など情報提供を行うとともに、不満やニーズ等課題の収集に努めた。ただ一方的に聞く場面が多く議論できる工夫が必要である。	教育委員会議の存在も含め、開催について広報手段を工夫し、より一層町民へ周知を図る。また提起された課題の検討状況等についてフィードバックを行うよう心がける。
教育委員会議は、地域住民・学校との交流・懇談の中から得られた課題を議題として適切に対応したか	B	学校等の訪問やPTAとの懇談会、地域住民との対話での課題について、誠意を持ってできるだけ取り上げてきた。しかし、要望が多様に対応に慎重さが必要だったり、課題も個人情報があり議題として扱いにくかったりしたところがある。また、予算措置が必要な事案も多く十分とは言えない。	課題には予算を伴うもの、学校等の教育方針に関わるものなどがある。一層連携を強化し、必要度を見極めて対応する。緊急性、重要性などの観点から優先順位を付け予算の確保に努める。

前年の課題に対し具体的な改善策が講じられ改善がなされたか	B	時間的余裕はなかったが、適正な意思決定をするために事前の資料確認や勉強会は実施された。予算確保に向けての取組みはさらに工夫する必要がある。	予算の確保に向けての取組みをさらに工夫する。臨時開催など課題に対して迅速に対応する。地域住民との懇談や学校訪問で得られた課題やニーズの掘り起こしを行い、現状を踏まえた教育方針の策定を行う。
総合評価	B	教育委員会の職務権限に属する案件について、適切に協議し円滑に運営できた。各委員が目的に沿って前向きに取り組んだ。しかし、適正な意思決定機関であるかについては、型どおりの感があり真に重要な課題について深堀し審議解決する場となっていない。また、身近な存在になっているかという点についても、課題が残る。地域住民との対話の機会を多く持ち、情報収集と情報の提供を効果的に行ってさらに開かれたものにしていく必要がある。	

(2) 事務連絡調整会議

満足 A 概ね満足 B 努力が必要 C

【目的】 教育委員会会議を円滑に運営するため、事前の勉強会や次回定例会議事の内容確認等を行う。			
評価項目	評価	評価の主な根拠	課題に対する改善点等
必要に応じて、適宜、開催されたか	A	平成23年度からの新教育課程実施や教科書採択、教育予算編成、子育て支援、生涯学習などそれぞれの内容について適宜実施され、情報の共有化と理解を深めることができた。	
勉強会等を通じて、今日的な課題や必要な情報が十分得られたか	B	資料・情報もしっかり得られ、重要な案件について対応することができた。特に教科書採択についての勉強会で内容を一層深めることができ、それらを基に会議に臨むことができた。しかし、色々な視点から検討すべき重要な案件についての情報提供や議論は十分とは言えない面がある。また、委員によっては任期前の案件があり、経緯や事由の説明が必要である。	毎回、時間的な制約がある中、ボリューム感があり、駆け足となる場合もあるので、真に議論すべき案件がある場合は時間調整を行うなど、臨機応変に対応する。基本的には別日程でなく同日開催でも十分その目的は果たせると考えるが、案件によっては別日程で開催する。また、経緯については口頭でもよいから伝える。
次回の議案、テーマに関して十分な理解がなされたか	B	当日までに間に合わなかったものもあるが、前年の課題であった当日の資料提供は改善され、概ね資料は事前に配付されて理解がなされた。委員、事務局などの考え方を知り問題点や論点が明らかとなり方向性が見えた。しかし、時間が足りないため重要な案件ほど情報の共有化がなされない傾向にあった。	事前の勉強会や次回の教育委員会会議の内容確認及び理解を深めるという目的を十分果たすために、次回の内容予定や資料の提供を早く行い、教育委員自ら事前学習ができる環境の改善に努める。
前年の課題に対し具体的な改善策が講じられ改善がなされたか	B	案件の量や時間不足が昨年度の課題であった。会議の時間配分は柔軟に調整し改善のため努力はした。しかし、緊急の事態や突発的な事案が多く解消は容易ではない。資料配付は改善されたが、依然として数日前で事前学習の時間が十分ではない。	会議の持ち方を工夫し、事前配付資料は簡単に確認する程度とし、会議の効率化を図る。資料はもっと早く提供し、十分に事前学習できるよう改善する。

総合評価	B	教育委員会議を円滑かつ効果的に運営するための会議である観点から、概ね目的に沿って実施できたと考える。また、同時にいじめ問題等、重要な問題などを議論、協議する場ともなっている。事前学習の環境づくりや時間的制約がある中で、様々な案件への対処など努力した。ただ、まだ十分とは言えず、案件によっては、別日程で開催するなど臨機応変に対応すべきである。
------	---	--

(3)意見交換会・懇談会

満足 A 概ね満足 B 努力が必要 C

【目的】			
保護者や地域の方々と直接対話することにより、子どもを取り巻く様々な課題を共有し、今後の教育行政に反映させる。			
評価項目	評価	評価の主な根拠	課題に対する改善点等
適切な時期に必要な回数実施されたか	A	大磯町立学校PTA連絡協議会役員との懇談や小中学校の地区懇談会に出席し、学校関係者、保護者、地域住民の方々と子どもを取り巻く様々な課題を共有できた。大磯町PTAとの懇談の時期や各学校の単位PTAとの細かい話し合いについては検討が必要だと思われる。	要望等を次年度の予算編成に十分反映できるよう時期を早めたり、地区ごとに開催したりするなど、大磯町PTAとの懇談の時期を見直し、各学校の単位PTAとの細かい話し合いができるよう設定を考える。
参加した懇談会等で必要な課題が適切に話し合われたか	B	PTAとの懇談では「いじめ」「制服」などテーマを決めて話し合いをしたので議論が深まった。地区懇談会ではテーマを決めたが時間的な問題や本音が出にくいなどの状況もあり、十分に話し合うことは難しかった。	テーマについて事前に資料などで予備知識を持つ。提起された多様な要望や課題に関し、問題の集約と掘り起こしを行い、地域の方々と共有化を図って協働により解決していく。
懇談会等を通して得られた情報やご意見をその後の教育行政に生かすことができたか	B	懇談会を通じ得られた施設面や指導面での課題について、施策の中で対応可能なもの、町単独で解決できないもの等に分類し可能なものから対処した。指導上の課題など、学校に伝え解決できた。しかし、予算措置が必要なものもあり、十分とは言えない面があった。	教育委員会としてできることとできないこと、継続的に検討すべきことなどはっきりと姿勢を示す。教育行政に生かしきれなかったものについては継続性を考慮する。
懇談会等により、教育委員会が住民にとって身近なものとなっているか	B	PTAとの懇談会では認知度が高い。委員は親の一人としても毎回発言しているので親近感を持ってもらえている。地域の方々からの多様な要望や課題について先ずは受け止め共通の認識を持てたのはよかった。しかし、課題について討議するだけの掘り下げが不足していた。	誠意を持って対応し、何か見えるものとして返していく。今日的な課題について同じ目線で相互に理解しあう場から一歩進んで、協働によって解決していく場となるよう努め、よい機会として大切に扱っていく。
前年の課題に対し具体的な改善策が講じられ改善がなされたか	B	幼稚園問題については継続して協議している。課題について相互に理解しあうことはできたが、様々な意見を事業に反映させることは予算の関係もあり十分とは言えない。	内容が多岐に渡るので分別、整理して地域と協働で取り組んでいく。予算面については町部局へ、その必要性や重要性の理解を求めると。
総合評価	B	施設面や指導面での今日的課題について活発な議論ができ、対処すべき事案の共有化が図られニーズに応えることができた。参加者の意見や情報を得るよい機会なので大切にしたい。一方、提起された課題について予算等の関係で対応が不十分なところがあり、今後は実現の可能性の周知を図ること、また重要性や施策展開のレベル分けなど整理を工夫していく必要がある。	

## (4) 訪問(学校・幼稚園・保育園)

満足 A 概ね満足 B 努力が必要 C

【目的】 学校・幼稚園・保育園現場を訪れることにより、現場が抱えている課題を把握し、教職員との懇談を通し、今後の教育行政に反映させる。			
評価項目	評価	評価の主な根拠	課題に対する改善点等
学校・幼稚園・保育園の教職員と教育行政を担う教育委員とが、真摯に問題を共有できたか	B	教職員と教育委員会が直接話し合いを行い意見や要望を率直に聞くことができ、共有化が図られた。グループ討議では活発な意見が得られた。また、緊急の訪問で問題に取り組めた。ただ、指導の場面ではまだ率直にもの言えない雰囲気を感じられた。	共に課題解決に向けて歩むことを理解してもらうために訪問回数を弾力的に考える。懇談を通しての共有化も重要だが日常の営みの中でのタイムリーな情報集とフィードバックも大切なので、そのための体制づくりを検討する。
学校・幼稚園・保育園訪問を通して得られた情報やご意見をその後の教育行政に生かすことができたか	B	すべての学校等を訪問し多岐に渡る意見や課題、ニーズを直接聞くことができ、施策で応えられるところは迅速に対応した。しかし、教職員の配置増など予算措置の伴うものは十分な対応ができなかった。	人的な部分は県も関わり、財政面は様々な制約がある。対応する事柄について必要に応じ話し合いを設ける。意見、情報については教育委員会内部で共有化する。
前年の課題に対し具体的な改善策が講じられ改善がなされたか	B	教育委員会が単に意見収集に終わらず課題解決のため努力することを常に心がけており、現場から生の声を聞けるよう努めた。しかし、意見交換が形式的である点については改善されていない。	課題は教職員の心を開く内面の問題や校内体制にも関わる。教育委員会は学校等のサポーターであるので生の声が出てくるよう、お互いの信頼関係を大切にする。
総合評価	B	すべての学校・園を訪問でき、緊急の訪問も実施した。教職員が抱えている悩みや課題の共有化が図られ、ある程度助言したり施策によって応えることもできた。ただ、要望と対応の整理を明らかにして返していくこと、予算措置の伴うもの等の教育行政へのフィードバックなど不十分な点については検討が必要である。	

## (5) 訪問(行事等)

満足 A 概ね満足 B 努力が必要 C

【目的】 学校・幼稚園・保育園行事や教育委員会主催行事への参加をとおして、教職員、園児・児童・生徒及び地域住民と積極的に交流、意見交換することにより、各学校や地域の取り組みについての認識と理解を深める。			
評価項目	評価	評価の主な根拠	課題に対する改善点等
教育委員が、園児・児童・生徒、保護者、地域住民と有意義な交流、意見交換が持てたか	B	良い意味で普段とは違った子どもたちの側面を発見することができた。また、多くの地域の方と学校・園という共通の話題で意見交換でき、様々な方と気軽に交流を深められるよい機会であった。	子どもや保護者への声かけ等をするのも一つの方法であり、今後も継続的に参加していきたい。
各学校・園や地域の取り組みに関して、認識と理解を深めることができたか	A	各学校・園の特色を生かした取り組みに触れることができた。地域や保護者のうわさではなく、実際に子どもたちの活動を見ることで、能力の高さや学校・園の雰囲気、また住民の関心の高さ等を感じ取ることができた。	
前年の課題に対し具体的な改善策が講じられ改善がなされたか	B	学校・園、地域の様々な行事に参加し交流する中で気軽に意見交換のできる場として利用できた。ただ、得られた意見等を教育委員会活動に十分反映できたとは言えない。	自然に交流する方が本音の意見が聞けると思われる。その意見を委員会等にフィードバックし教育行政に資することが必要である。
総合評価	B	多くの行事に参加し、様々な人と交流できたことは、子どもたちの普段の授業とは別の面を見ることができて有意義であった。今後も学校・園と地域との協力関係をよりよいものにするための仲介役になりたい。ただ、ここで得られた意見等を教育行政に反映できれば更によかったと思われる。	

#### 4 学識経験者による評価（外部評価）

##### 【外部評価者】

※ 評価者氏名（50音順 敬称略）

氏名	所属等	備考
成田 康 昭	立教大学社会学部教授	平成 21・22 年度外部評価委員
増井 静 江	税 理 士	平成 21・22 年度外部評価委員

##### 【外部評価の概要】

点検・評価の客観性を確保するため、教育に関し学識経験を有する上記の方々のご意見をお聞きする機会を設け、次の2点について、外部評価をお願いしました。

- ① 内部評価での評価項目や評価そのものが適正・適切であるか(内部評価の妥当性)
- ② 内部評価での評価項目や評価そのものが妥当性に欠ける場合や更によりよい評価活動を目指すための指針(指導・助言)

##### (1)教育委員会議

内部評価の妥当性について	指導・助言
<p>「教育委員会の職務権限による案件について、適切に協議し円滑に運営できた」点は評価できる。また、評価項目が適切に整理され評価状況が明瞭になった点は大きな前進として評価できる。</p> <p>一方、そこから見えてきた、「議案審議などは型どおり」である点と「予算的に対応が不十分」であったという点、「教育委員会議の存在や開催が町民に浸透して」いないという3つの課題に関する改善点はやや具体性に欠ける。さらに言えば、この3つの課題に共通する問題点があるように見受けられる。</p> <p>すなわち、教育委員会が何を目標に掲げ、どのような問題点に対して、何をしようとしているのかについての理解の共有が、教育委員会内部、町部局内、さらには町民にとっても、度合いの差はあっても、それぞれに不十分性を抱えているのではないか。</p> <p>たとえば「教育予算の確保」が必要であると記しているが、それが何のための、どのような予算であるのかが明確でなければ、問題点の共有は難しい。重要なのは、教育委員会議が「存在」していることを周知することに止まるのではなく、教育委員会議が何をしようとしているかを周知することであろう。</p> <p>教育委員会議が、適正な意思決定機関になっているかの評価項目で、「付議事項は慎重に審議され、特に重要な案件は時間をかけ活発な議論をしてきた」としながら、「議案審議などは型どおりの進行であり、真に課題解決</p>	<p>「課題に対する改善点等」に「教育ビジョン」の実現に向けて・・・との記述がある。町として教育の目標を「大磯町教育ビジョン」の形で明確に掲げることは、左記の「教育委員会」「町部局」「町民」3つのレベルでの課題共有にとっても、きわめて重要であり、1日も早い実現が待たれる。しかし一方、「大磯町教育委員会基本方針」は各セクションの「重点施策」を含め、毎年度、教育委員会会議によって決定し、HPを通して町民に公表すると共に、各学校、機関に示している。すなわち、この基本方針は教育委員会活動の中心をなすものと考えられる。したがって、少なくとも現状では「大磯町教育委員会基本方針」が目標と課題、施策の共有可能な原則と考えられる。</p> <p>このことから「内部評価」は「大磯町教育委員会基本方針」に照らしての評価とすることが重要ではないか。基本方針の多岐にわたる項目毎に、評価を行う必要はないにしても、「項目別点検・評価」の中に「大磯町教育委員会基本方針」の項目を起すか、あるいは、「教育委員会議」の内部評価の中で細かく、基本方針、特に「重点施策」項目に関連してできたこと、できなかったことを記していくことがのぞまれる。それが明確であれば、いかなる重点施策の予算が確保できなかったのかといった具体的レベルで、問題点が把握できるはずである。</p> <p>教育委員会議が、適正な意思決定機関になっている</p>

<p>の場となっていない」とし、総合評価でも「適正な意思決定機関であるかについては、型どおりの感があり真に重要な課題について深掘し審議解決する場となっていない」としていることから、B評価は再考の余地がある。</p>	<p>かの評価項目の改善点等に「これまでのやり方からの脱皮を志向すべきである」に留まり、いつから何をやるのか具体性がなく改善策となっていない。</p>
---	---

## (2) 事務連絡調整会議

内部評価の妥当性について	指導・助言
<p>評価項目の設定は妥当である。事務局の努力によって、前年に課題であった「当日の資料提供」が改善された点は評価できる。また、会議開催日程や時間に関して「緊急の事態や突発的な事案」に対応しようと努力されている点も評価できる。総合評価「B」は妥当である。</p> <p>勉強会等を通じて、今日的な課題や必要な情報が十分得られたかの評価項目で「色々な視点から検討すべき重要な案件についての情報提供や議論は十分とは言えない面がある」や次回の議案、テーマに関して十分な理解がなされたかの評価項目で「時間が足りないため重要な案件ほど情報の共有化がなされない傾向にあった」と認識しているのは評価できる。しかし総合評価では、「教育委員会会議を円滑かつ効果的に運営するための会議である観点から、概ね目的に沿って実施できたと考える」とし、課題が埋没してしまった感がある。</p>	<p>開催日程に関しては「基本的には別日程でなく同日開催でも十分その目的は果たせると考える」としているが、それが、重要問題への「臨機応変」の対応によって担保されるとしている点は重要である。「教育委員会会議を円滑かつ効果的に運営するための会議である」事務連絡調整会議は、教育委員会会議よりも、多角的な視点からの検討と深い議論が必要である。その意味で、さらなる資料提供と議論を期待したい。</p> <p>今後の課題としては、事務連絡調整会議の内容をいかにして、町民に向けて透明化をはかるかであろう。この会議において、完璧に問題点の共有がなされればなされるほど、外部からは、教育委員会会議の議論が見えにくくなってしまおうという問題がある。たとえば、教育委員会のホームページ上で、定例会の会議録だけでなく、「・・・問題について、委員の間で他市町の類似事例に関する勉強会を持ちました」といったような報告、さらに、その中で教育委員会会議の議論にとって参考となった論点などの公表を行うという方法もあろう。情報の共有化の手段はいろいろあり、手段を尽くして情報を組織全体で共有し動けるように臨機応変に対応していただきたい。</p>

## (3) 意見交換会・懇談会

内部評価の妥当性について	指導・助言
<p>意見交換会は21年度以降、PTA連絡協議会、中学校地域フォーラム、各地域のふれあいの集いと年7回実施されている。ただ、この3つのタイプの会合は性格が異なるために、一概に評価するのが難しい点がある。特にPTA連絡協議会は、施設面、指導面で具体的な要望が多く寄せられており、さらに、「各学校の単位PTAとの細かい話し合い」の検討の必要性も指摘されている。他方、地区懇談会は、これからの地域の教育力の形成にとっては重要である反面、現状の開催方法では活発な意見が出にく</p>	<p>評価項目としては、PTAを地域とは別項目として見ていく方が、評価しやすいのではないかと考えられる。その方が、それぞれの会合の意義と成果を判断しやすいであろう。</p> <p>地域の教育力をいかなる形で構築していくかは大きな課題である。地域ふれあいの集いへの参加が、地域の教育力育成にとっては、時期尚早であるとの判断の下に「勇気ある撤退」をするという選択肢もある。その場合は、それに替わる何等かの方法を講じることが</p>



<p>いなど、未だ課題が残る状態である。中学校地域フォーラムは両者の中間的存在である。内部評価の記述をみ限り、現状の方法では評価の視点は3タイプの1つに限って行わざるを得ないようである。従って、これら3者を総じて評価することが妥当であるかはやや疑わしい。</p> <p>前年と同じ回数の懇談会が開催され、保護者や地域住民の意見や情報を得るよい機会と捕らえ、Bの総合評価は妥当である。しかし、地域の方々と協働によって解決していくとの改善策等は、具体的に何をどのようにして協働するのが不明である。</p>	<p>望ましい。現状ある小学校を中心とした、地域の教育ボランティアの動きを組織化するなど、地域への新たなアプローチの仕方を検討していくことが必要であろう。</p> <p>12月18日開催、第2回大磯町立学校PTA連絡協議会役員との懇談会の報告事項で、第1回懇談会で出た要望の回答がされている(前年も同様である)。回答に5ヶ月要するのか、回答する機会が他になかったからか、緊急性がなかったのかと心配される。</p>
--	--

#### (4) 訪問(学校・幼稚園・保育園)

内部評価の妥当性について	指導・助言
<p>「すべての学校・園を訪問」することができ、さらに「緊急の訪問も実施」しており、教育委員会と現場の機関との緊密な対話の場が、継続して持たれていることの価値は大きい。その意味で、総合評価の「B」は首肯できる。</p> <p>しかし、問題事案が発生した学校では定例の訪問時においても、深刻な状況は報告されており、その段階で、積極的な対応がとれなかったことは残念である。定例の訪問が、単に「問題の共有」で終わるのではなく、必要に応じて具体的な対応策を協議できるような場になることが求められる。しかし、事案発生後、緊急の訪問において、迅速に対応できたことは評価できる。</p> <p>また、昨年に続いて「意見交換が形式的である点については改善されていない」との認識がありながら、昨年の内部評価における、「グループ討議形式や管理職を交えず教職員だけの懇談会形式も検討する」とした改善点の記述が生かされていないのは残念である。「前年の課題に対し具体的な改善策が講じられ改善がなされたか」の項目においても、そのような検討が加えられたとの記載はない。従って、この点の評価は「C」が妥当である。</p> <p>毎年全町立校等へ訪問できていることは、教育行政は現場である学校等に集約されることから評価できる。中学校での問題などは、同じ地域の幼稚園、保育園や小学校と連年の訪問で体系的な把握も出来易い。</p> <p>改善策で、「懇談を通しての共有化も重要だが日常の営みの中でのタイムリーな情報収集とフィードバックも大切なので、そのための体制づくりを検討する」とし、懇</p>	<p>問題事案の発生を未然に防ぐための方法を検討する必要がある。たとえば、定例の訪問において報告された状況が、「注意を持って見守る必要のある状態」であるならば、「経過観察と報告の仕組み」を、また、明らかに「緊急の対応が必要」であると判断した場合は、何等かの臨時的な「連絡体制」をおき、教員と教育委員からなる小規模な「対策会議」などを頻繁に持つなどし、推移を見守りながら、人的な予算措置を含めた対策を立てるといった方法が考えられる。</p> <p>改善策にある日常的な学校等からの情報収集は報告書等であろうが、①報告書等はフィードバックを必ずすることや、②教育委員会は学校等のサポーターであるとしているが、加えてコーディネーター的な存在も期待する。何故なら、①の日常的な報告書等が報告だけの一方通行ではなく教育委員会の目が見守っているという信頼関係を築き、さらに適切な対応について早期の段階でアドバイスが可能となる。②で良い学校の取り組みやサポート体制を紹介する等のコーディネーター役が必要と考える。大磯中学校で「生徒・職員ともに楽しくなければ学校でないと思えるように」と掲げ、同校は個別指導や情報の共有など職員のチームワークが良いことや教員間の風通しのよさを挙げている。問題の無い学校は組織としての良い取り組みがあるものと思うが、そのノウハウを問題のある学校へ伝え町立学校全体で共有できるようにするのは教育委員会のコーディネーターとしての役割と考える。</p>

談に加え日常的に学校等から情報収集の必要に触れていることは評価できる。	
-------------------------------------	--

### (5) 訪問(行事等)

内部評価の妥当性について	指導・助言
<p>「学校・園、地域の様々な行事に参加し交流する中で気軽に意見交換のできる場として利用できた」と評価している点は妥当である。参加している行事数が多いが、それを積極的に「意見交換」の機会として活用しようとする姿勢は評価できる。</p> <p>各学校・園や地域の取り組みに関して、認識と理解を深めることができたかの評価項目は、この活動の目的もありその評価を満足Aとし、総合評価でも「多くの行事に参加し、様々な人と交流できたことは、子どもたちの普通の授業とは別の面を見ることができて有意義であった」は妥当である。</p>	<p>このような行事への参加は、教育の成果を現場の空気として実感する上で重要である。また、特に議題を設定するのではない気軽な意見交換から、一方的な理解ではない様々な見方が得られることの価値も大きい。それを直接、「教育行政に反映できれば」との思いも分かるが、それよりも、短いものであっても、参加の所感を残し、意見交換から得られた貴重な知見を委員会内部で共有するなどの工夫が必要ではないか。</p> <p>改善点で得られた意見を委員会等にフィードバックし教育行政に資することが必要と言及しているところから、その具体策を示すべきである。</p>

### (6) 全体に関わる評価

指導・助言
<p>(1) 外部評価の資料として「平成22年度教育委員会基本方針についての点検・評価」の内、義務教育などを追加したものが必要である。点検・評価の対象は、①教育委員から構成される委員会の活動 ②教育委員会が管理・執行を教育長に委任した事務 の2つに区分される。教育行政の点検・評価は、上記で区分した①と②が有機的に機能して結果として「効果的な教育行政の推進」を目的としてなされる。結果として、教育行政の点検・評価に留まらず、教育委員会委員の活動についての点検・評価を区分し、2本立てとしている。外部評価委員による評価は、この内教育委員会委員の活動に限定されている。これは、教育委員会と教委事務局とが教育行政を動かす両輪であり、双方が効率的、効果的に機能しているかの点検・評価に他ならない。この観点から、教育委員会の活動が教育行政に反映されているか。教育委員会が形骸化されずに、本来の管理・執行事務、教育長への委任事務を行い、広義の教育委員会の中で十分に機能し、町民の期待に応えているかを問われていると考える。そこで、外部評価委員による評価の資料として「平成22年度教育委員会基本方針についての点検・評価」の内、義務教育など教育委員会活動に関係する部分が必要だと考える。</p> <p>(2) 評価の基準、指標がない。評価を3段階ABCとしているが、基準が曖昧であり指標もないため、主観的となる。</p> <p>(3) 課題に対する改善策の内容が抽象的であり、具体的な改善策になっていない。具体策が無いと、何をどれだけ修正すべきかの行動に結びつかない。抽象的な記述だけではスローガンを掲げるだけで毎年の点検・評価が形骸化される。</p> <p>(4) 昨年評価項目に次の追加提案をした「前年の課題に対し具体的な改善策が講じられ改善がなされたか」が、毎年の点検・評価を通してPDCAサイクルが回れば削除して良いと思う。何故なら、他の評価項目の課題に対する改善策等と重複してしまうためである。ただ、前年からの課題とその取り組みを強調させる効果や判り易さはある。</p>

## Ⅱ 「平成22年度教育委員会基本方針」についての点検・評価

### 1 義務教育

#### 《基本方針》

現行学習指導要領の「生きる力」の理念や「大磯町第四次総合計画」の「心豊かな人を育てるまちづくり」の趣旨を踏まえる中で、新学習指導要領への移行期間であることを考慮し、その完全実施に向け、確かな学力・豊かな心・健やかな体の育成、そして、自己の生き方を見つめ、新しい時代を自ら切り拓くことのできる人づくり等、信頼される学校づくりを目指します。

#### 《目標》

1. 各学校では、創意工夫と新学習指導要領への移行を考慮した教育課程を編成し、特色ある学校づくりに努めるとともに、人間として心豊かでたくましい児童・生徒の育成を目指します。
2. 保護者や地域の方々とは諸問題を共有しつつ協力体制を築き、これからの時代の要請に見合う大磯町にふさわしい教育活動の展開を図ります。
3. 「教職員としての使命の自覚」「教職員としての力量」を高めるために、教育研究所機能も活用し、研究・研修の機会や場を拡充します。さらに、異校種間連携や他市町との広域的人事交流も推進します。

#### (1) 重点施策の中で、特に重要課題と捉えた施策

- ① 小・中学校の連携
- ② ICTの整備・活用
- ③ 児童・生徒支援体制の強化
- ④ 施設の安全確保
- ⑤ 学校施設の整備

#### (2) 課題別点検評価

達成状況 AA：達成（予定以上） A：達成（予定通り） B：予定より遅れたが達成 C：概ね達成  
D：予定の半分程度達成 E：ほとんど進まず F：その他

実施状況	達成状況	成果（○）と課題（□）
<p><b>① 小・中学校の連携</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国府小学校と国府中学校で小・中連携研究を行いました。7月に第1回小・中連携研究委員会を開催し、3年目の取り組みについて協議を行いました。10月に第2回小・中連携研究委員会を開催し、中間報告や今後の予定の確認・情報交換を行いました。</li> <li>・小・中学校それぞれの教職員が授業を公開し、お互いに参観しました。</li> <li>・3学期に中学校教員による出前授業を小学生対象に行いました。</li> </ul>	<b>B</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○小・中学校それぞれの教職員が、授業参観日等を利用し、お互いに授業を参観することにより、それぞれの特性や授業内容を知る良い機会となりました。普段の授業日においても、小・中で連絡を取り合い授業参観に気軽に行くことができる環境ができました。</li> <li>○教員同士の授業参観については、特に小学校教員にとっては、6年生を卒業し中学生になった子どもの変化を知るよい機会となり、その後の情報交</li> </ul>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・4月より、小学校6年生において、算数、理科、社会、体育のそれぞれの教科について、教科担任制を実施しました。</li> <li>・中学校文化祭実行委員が小学校の児童に対し文化祭の説明に出向き、多くの児童が文化祭に見学に行きました。</li> <li>・中学校に対する小学校6年生の保護者アンケートを実施しました。</li> <li>・中学校生徒会が小学校に出向き、中学校生活についての説明会を開催しました。</li> <li>・6年生が中学校を訪問し、部活動の見学及び体験をしました。</li> <li>・小学校6年生担任と中学校教員による情報交換会を開催しました。</li> <li>・AETが中学校職員から電子黒板の操作方法を習い、小学校の授業内容を作成し実践しました。</li> </ul>	<p>換にも役立てることができました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○中1ギャップの解消という視点では、小学校における教科担任制の継続により、児童は小・中学校の授業形態の違いに慣れ、教員は学年全員の様子をつかみ学年全体を育てる意識ができました。</li> <li>○児童のみならず保護者の中学校進学への不安感解消に努めました。</li> <li>□小・中連携研究のねらいの一つに「小学校での外国語活動のあり方」があり、中学校英語教員の出前授業を計画しましたが日程等あわず実施できませんでした。中学校の英語教育につなげる実践研究を進める必要があります。</li> </ul>
<p><b>②ICTの整備・活用</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大磯中学校に27台、国府中学校に28台の校務用コンピュータ及び周辺機器を整備しました。</li> <li>・中学校校務用コンピュータのセキュリティの確保のため、サーバー内にデータを保存した際に自動的に暗号化でき、ファイル保存領域にアクセスできるシステムを導入しました。</li> <li>・中学校校務用コンピュータにグループウェア機能、スケジュール管理機能等導入しました。</li> <li>・電子黒板活用のために、平成19年度から文部科学省「電子黒板普及推進に資する調査研究事業」に実践協力校として先進的に電子黒板を研究している茨城県つくば市立吾妻中学校の教員2名を講師に迎え研修会を開催しました。また、1学期に電子黒板を積極的に活用した教員による実践報告研修会を開催しました。</li> <li>・すべての小・中学校にデジタルテレビを導入しました。</li> </ul>	<p><b>B</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○校務用コンピュータ・ネットワークを整備したことにより、データの一元的な運用管理の実現を図ることができました。</li> <li>○生徒の個人情報等を扱う学校において欠かせないセキュリティの確保を実現できました。</li> <li>○電子黒板のみならず、実物投影機、デジタルテレビなどICT機器を活用し、児童・生徒の学習への興味・関心・意欲を高め、学習内容を分かりやすく深める授業にすることができました。</li> <li>□職員会議等での校務用パソコンによるペーパーレス会議を行うなど努めていますが、不慣れな職員への活用推進を促すとともに使いやすい環境を更に整える必要があります。</li> <li>□学籍管理や成績処理等をスムーズに行えるようなシステム作りを検討していく必要があります。</li> </ul>
<p><b>③児童・生徒支援体制の充実</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小1プロブレムを解消し、よりきめ細かい指導を行うため、大磯小学校第1学年及び第2学年で、国府小学校第1学年で35人学級編制を行いました。また、中学校においても、大磯中学校第3学年、国府中学校第</li> </ul>	<p><b>A</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○35人学級編制について、実施した学年の教員からは、目が行き届きやすいと好評でした。</li> <li>○教員とは違う立場の相談員や指導協力員を配置したことにより、学習面や生活面で児童生徒の困</li> </ul>

<p>1学年で35人学級編制を行いました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校教諭免許を所有した「小学校指導協力員」を小学校に、「スクールカウンセラー」、「心の教室相談員」を中学校に、「スクールアドバイザー（臨床心理士）」、「訪問教育相談員」を教育研究所に継続配置し、配慮を要する児童・生徒への支援を行いました。</li> <li>・臨床心理士や県立特別支援学校の地域支援担当教員、言語聴覚士をメンバーとして相談支援チームを組織し、子ども育成課指導主事とともに幼稚園、保育所、小・中学校への巡回相談を実施しました。</li> <li>・中1ギャップ解消のため小中連絡会を開催し、支援の必要な生徒を配慮をもって中学校に迎えらるるようにはしました。</li> <li>・保護者の要望に応え、就学前機関から小学校へ支援の継続を図るために支援シートの作成や小学校における入学前の相談実施に努めました。</li> <li>・支援教育推進のため教育支援員を28名から31名に増員して配置しました。</li> <li>・不登校傾向のある児童・生徒を早期に把握し、対応できるようにするため、月ごと3日以上欠席調査を継続して行いました。</li> </ul>		<p>り感に対応できる場面が増え、児童生徒の学校不適応を未然に防ぐことができました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○相談支援チームの巡回相談により、学校（園）の校（園）内支援体制の整備を推進するとともに、教員に対してより専門的な助言をすることができました。</li> <li>○異校種間の連携が図られ、連絡会の開催や支援シートの活用、入学前相談の実施等により、入学当初から配慮して支援できる例が増えていきます。</li> <li>○教員個人としてではなく、学校組織として配慮を要する児童・生徒への支援を行うことができるようになってきています。</li> <li>□中学校における35人学級編制は、人的な措置がなく学校の努力により実施されました。きめ細かい指導や個に応じた支援を進めるために、人的配置を充実させる必要があります。</li> <li>□教育委員会として適正な人数の教育支援員配置に努めてきましたが、特別支援学級の在籍者の増加や通常級に在籍し配慮が求められる児童生徒への対応から、今後も教育支援員の配置や有効活用について検証していく必要があります。</li> <li>□児童・生徒の自己肯定感を高めるために、楽しい学校づくり、分かる授業づくり等に視点をおいた取り組みについても検討していく必要があります。</li> </ul>
<p><b>④施設の安全確保</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国庫補助金を活用して、大磯小学校ブロック改修、大磯中学校防球ネットの整備を行いました。</li> </ul>	<p><b>A</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○児童、生徒に快適な教育環境を提供することができました。しかし、各施設とも老朽化が進んでおり総合計画に位置付けるなど優先順位をつけ施設の安全確保が必要であります。</li> </ul>
<p><b>⑤ 学校施設の整備</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各小・中学校、各幼稚園に太陽光発電設備を設置いたしました。</li> <li>・国府中学校のグラウンド改修の実施設計を行いました。また、国府小学校敷地内へのプール整備に向け、実施設計を行っております。</li> </ul>	<p><b>C</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○画面に現在の太陽光の説明、発電量など情報発信ができるなど環境教育に配慮した整備ができました。</li> <li>□国府中学校のグラウンド改修の実施設計につきましては、完了しました。また、国府小学校プー</li> </ul>

ル整備につきましては、設計業者の変更があり年度内に実施設計が完了しませんでした。

### (3) 教育委員による評価

#### ① 小・中学校の連携

<p>評 価</p>	<p>小学校では新指導要領の完全実施を直前にし、子どもたちの学びの連続性を考慮したときに中学校との連携は一層その重要性を増してくる。</p> <p>小・中連携研究委員会において諸問題を共有するとともに協力体制を取りながら各学校において創意工夫をこらした教育課程を編成し、きめ細かな児童・生徒の育成に努めている。小学校6年における教科担任制の継続実施、教職員相互の授業参観、子どもたちが主体となった行事や部活動などでの児童・生徒の交流、保護者へのアンケート等、様々な試みを行っていることは評価できる。国府小・中学校の連携研究は3年目になり児童・保護者の不安の解消には十分努めたことが伺える。</p> <p>しかし、大磯小・中において同様の取組みがどこまでなされているかは課題であろう。平成21年度も課題としていた「小学校での外国語活動のあり方」については、計画されながら実施されず平成22年度も同じ課題となったことは大いに反省すべきである。また、町内はよいが近隣の市町との細かい連携も必要である。従って、B評価が妥当である。</p>
<p>改善事項等</p>	<p>小1プロブレムや中1ギャップの解消など、よりきめ細かい指導により児童・生徒の連続的な学びと成長を図るため、小・中連携研究委員会においては保護者等が抱える問題点も十分理解した上で協議、意見交換を行うことが望ましい。</p> <p>平成22年度が連携研究会の3年目という一つの節目だったが、その総括としての整理と今後の課題・方向性が明確になったのか伝わってこない。3年間の成果・課題のまとめと今後の方針を示すべきである。また、研究委員会と子どもたちの交流や授業参観など多くの連携事業へのかかわりが見えてこない。会が形式的に流れている懸念はないのか、他の連携事業と有機的にかかわれるよう工夫が求められる。</p> <p>新しい授業である「外国語活動」については、中学校の教員が小学校の授業や指導計画を確認し、中学校の授業に生かせるよう実践研究を進めていくことが必要である。</p>

#### ② ICTの整備・活用

<p>評 価</p>	<p>これまで懸案であった校務用パソコン及び校内LANがようやく整備され、データの一元管理や成績処理等校務の効率化、情報の適正な管理が図られ、また、ビジュアルな授業を行うことにより児童・生徒へ分かりやすい授業を実践することができた。</p> <p>ただ、校内コンピュータ・ネットワークの環境整備はできたが、各教職員のスキ</p>
------------	--

	<p>ルに因るところも大きく、その利用に差がある。また、電子黒板の活用についても十分とはいえない。</p> <p>そのメリットを十分周知し、教職員全体をスキルアップして活用の効果を高めることが必要である。したがって、B評価が妥当である。</p>
改善事項等	<p>校内コンピュータ・ネットワークの整備と併せハード的なセキュリティー対策は取られたが、情報セキュリティーの確保には教職員の適正な管理が必須であり、教職員全員への定期的な研修によるスキルアップと意識の向上を図る必要がある。</p> <p>電子黒板の更なる活用とソフトの充実が望まれる。また、この整備を機に業務の見直しを行い、事務処理など校務の効率化を図って、できるだけ教科指導に力をシフトできるようなシステムづくりが必要である。</p>

### ③ 児童・生徒支援体制の強化

評 価	<p>厳しい予算の中で、各学校の実態を踏まえた35人学級の編成、支援シートの活用、異学校種の連携、相談員や指導協力員による学習面や生活面での支援、学校と家庭との連携など、児童生徒へのきめ細かな指導及び環境整備により、小1プロブレム、中1ギャップなどの解消に努め、併せて相談支援チームによる教職員への助言を行っていることは評価できる。</p> <p>ただ、一部で「いじめ」の現象面が表面化した。教職員個々には対応しているが、管理職を含む教職員全員の情報共有化が図られておらず、その努力が空回りしている。評価はBが妥当である。</p>
改善事項等	<p>中学校における35人学級編成は、学校独自に人的に乏しい中、努力しているのが現状で、よりきめ細かな児童・生徒指導のために人的措置が必要である。H21年度でも指摘したが、本務者の業務内容を検証し、その上で適正配置に向けた検討を行うべきである。担当が個に応じたきめ細かい指導を行い、児童・生徒の自己肯定感を高めるよう校長がリーダーシップを発揮し改革に取り組んでもらいたい。</p> <p>各学校の体制として、児童・生徒指導の情報の共有化について適宜会議を開催するなど、全教職員が一体となって取り組めるよう指導主事等による指導を強化すること。学校との連携を日常的に行い正確な情報をもとに真摯な議論により、学校と教育委員会の信頼関係を一層強化することが求められる。</p> <p>また、学力格差の解消について緊急に対処が望まれる。補習授業の取り組み、授業への適応状況に応じた少人数指導、分かる授業づくりに期待したい。</p>

### ④ 施設の安全確保

評 価	<p>児童・生徒が安心して学べる快適な教育環境を提供するためには、安全な学校施設の整備が不可欠である。厳しい財政状況の中、国庫補助金を活用し必要なところから施設整備を行ったことは評価できる。A評価は妥当である。</p>
-----	---

改善事項等	各学校施設とも経年劣化等で老朽化が進んでおり、総合的な観点から優先順位をつけ取り組むこと。なお、予算要求にあたっては、町長、町部局に対しその必要性の理解を得ることが必要である。また、大規模な修理・改修に対応するには多額の経費が必要となるので、普段から安全点検を行い、長期的な見通しを持ってメンテナンス費を確保するなど、対処していかなければならない。
-------	--

⑤ 学校施設の整備

評 価	<p>太陽光発電設備の設置は再生可能エネルギーが身近なところにある事を知り、今後のエネルギー問題を考える上で良い環境教育施設である。国府中学校のグラウンド改修について計画どおり進んでいる。</p> <p>国府小学校敷地内へのプール整備については、設計が年度内に完了とならなかった事は残念であった。不可抗力の部分もあるが、監理監督に改善を要する。C評価は妥当である。</p>
改善事項等	国府小学校のプール整備については、できるだけ早期に実施設計を完了させ、補正予算の要求を行うなど、これ以上遅れることのないよう取り組んでほしい。また、関係者、団体等への周知等きめ細かい配慮が必要である。



## 2 子育て支援

### 《基本方針》

「安心して子どもを産み、育てられる子育て環境づくりの促進」、「家庭、地域、行政が連携し子どもを育てていく体制づくりの促進」、「多様な保育サービスなど子育て支援機能の充実」を基本方針とし、子ども達一人ひとりにはもとより、その保護者に対する子育て支援の充実を目指します。

### 《目標》

1. 幼稚園では、新幼稚園教育要領の趣旨を踏まえ、保護者や地域の方々との協力体制を築く中で、心豊かでたくましい園児の育成を目指します。
2. 保育園では、保育所保育指針の趣旨を踏まえ、子どもの年齢と成長に合わせた心豊かな子どもの育成を目指すとともに、適切な保育の実施を行います。
3. 幼稚園と保育園の交流を深め、就学前幼児の育成を見据えた中で、幼保連携を推進します。
4. 子育て支援サービスの充実を図り、身近な場所で子育て支援を受けられるまちをめざします。また、家庭や地域の教育力を高め、子どもたちがいきいきと成長できるまちをめざします。

### (1) 重点施策の中で、特に重要課題と捉えた施策

- ① 保育園待機児童対策
- ② 子育て支援サービスの充実
- ③ 子育て教育環境の充実

### (2) 課題別点検評価

達成状況 AA：達成（予定以上） A：達成（予定通り） B：予定より遅れたが達成 C：概ね達成  
D：予定の半分程度達成 E：ほとんど進まず F：その他

実施状況	達成状況	成果（○）と課題（□）
<b>① 保育園待機児童対策</b> ・保育園の待機児童対策として、民間保育所サンキッズ大磯の増改築等に伴う定員増により待機児童を解消するため、平成 23 年度に補助金を交付することを決定し、平成 23 年度当初予算に補助金の予算計上を行いました。	<b>C</b>	○民間保育所サンキッズ大磯の増改築に対しての補助金を、平成 23 年度当初予算に計上し、予算措置されました。 □引き続き、待機児童対策について、空き店舗を活用した民間保育園の分園等、保育園における待機児童対策を検討していく必要があります。
<b>② 子育て支援サービスの充実</b> ・横溝千鶴子記念子育て支援総合センターにおいて、母親講座（ベビーマッサージ・茶道教室・折り紙教室）を 18 回、地域との交流を 3 回、「ママと一緒にのおはなしタイム」「ママと一緒にの体操タイム」「読み聞かせ」	<b>A</b>	○横溝千鶴子記念子育て支援総合センターを 5 月に開所し、年間 7,309 人が利用されており、97 件の相談支援を行い、つどいの広場機能及び子育て支援情報の提供を充実させることができました

<p>を毎月1回開催しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ファミリー・サポート・センター事業を実施し、ファミリー・サポート・センターを開設し、依頼会員及び援助会員の募集を行い、地域の人たちの助け合いを目指した、相互援助のボランティア活動を始めることができました。</li> </ul>		<p>た。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ファミリー・サポート・センターでは、依頼会員30名、援助会員10名の登録があり、153回利用されており、子育て支援サービスの充実が図られました。</li> <li>□横溝千鶴子記念子育て支援センターの情報を発信し、利用者を増やし、子育て支援体制の更なる強化が必要であります。</li> <li>□ファミリー・サポート・センターの情報を発信し、会員を増やし、利用を増やすようにし、子育て支援体制の更なる強化が必要であります。</li> </ul>
<p><b>③ 子育て教育環境の充実</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小磯幼稚園の廃園に伴い、民間幼稚園を誘致するため、私立幼稚園選考委員会を設置しました。</li> <li>・委員会を10回開催し、誘致のための条件整備や選考方法など具体的な内容について検討しました。</li> <li>・民間幼稚園の募集を行い、私立幼稚園選考委員会により選考を行い、民間事業者を決定しました。</li> </ul>	<p><b>A</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○平成22年12月、私立幼稚園選考委員会により民間事業者を、相模原市にある学校法人小磯学園に決定しました。</li> <li>□平成24年4月1日開園に向け、民間事業者に対して、認可申請等において町として協力していく必要があります。</li> </ul>

### (3) 教育委員による評価

#### ① 保育園待機児童対策

<p>評 価</p>	<p>待機児童対策については色々な面で検討を重ね、結果として次年度予算化の道筋ができたことは評価できる。ただし、タイムリーであったかどうかについては検証する必要がある。H22年度においては、具体的な目に見える形での成果があがっているとはいえない。したがって、C評価は妥当である。</p>
<p>改善事項等</p>	<p>H22年度は、待機児童解消を図るための効果的な施策として民間認定保育施設への委託と、そのための予算獲得を行ったと認識しており、今後は空き店舗の活用検討は改め同保育施設との連携を蜜にして対策を進めていくべきである。</p> <p>待機児童対策は、対象児童を抱える家庭にとっては待ったなしの対応が迫られる。安心して子どもを産み、育てる環境づくりを実現するためにも常に待機児童の状況を把握し、先を見通した施策を打ち出していく努力を求める。</p>

#### ② 子育て支援サービスの充実

<p>評 価</p>	<p>子育て支援総合センターの事業については計画どおり実施し、開所時より多くの利用者があり、新しいコミュニティーの場づくりができた。孤独になりがちな子育て</p>
------------	---

	<p>て時期に親子のふれあいのみならず、親としての自覚の醸成など、子育て支援活動の充実が図られたことは評価できる。また、ファミリー・サポート・センター開設が順調にスタートしたことは、子育て支援の充実へ大きな前進となった。</p> <p>ただ、H22年度の課題である東部地区における「つどいの広場」設置については検討できなかった。従ってB評価が妥当である。</p>
改善事項等	<p>子育て支援総合センターやファミリー・サポート・センターでは、利用者を増やす方向で考えていることはよいが、利用者及び地域の支援者の意見や要望を把握し、交流や相談活動にフィードバックするとともに、「センターだより」などを利用して活動等の情報発信を積極的に行ってほしい。ファミリー・サポート・センター事業は、きめ細かな情報発信と依頼会員からのサポート内容の聞き取り・援助会員のサポート報告など、事前・事後の支援体制の管理を徹底することが必要である。</p> <p>また、東部地区の「つどいの広場」設置については、子育て支援総合センターとの活動状況を踏まえ、その必要性の検討を行うべきである。</p>

### ③ 子育て教育環境の充実

評価	<p>民間幼稚園の誘致のための「私立幼稚園選考委員会」を設置し、様々な課題や要望等、具体的な内容についての的確に整理、分析し関係機関と慎重に協議を重ね、当初の計画より1年遅れたが、H24年4月開園に向け進めてきたこと、保護者の不安を解消するため進捗状況等の情報提供に努めたことは評価できる。従ってA評価は妥当である。関係者の努力は大変なものであったと思われる。</p>
改善事項等	<p>H23年度においては、H24年4月開園を控え選考された民間幼稚園事業者と個別具体的な内容について詳細を詰めるとともに、県等関係機関と連携するなど計画に沿って進めてほしい。</p> <p>また、H23年度下期には募集も行うこととなるため、事前に保護者説明会などで十分情報提供を行い、不安解消に努め児童が安心して通園できるよう、環境づくりに努めてほしい。</p>

## 2 生涯学習

### 《基本方針》

「思いやりのある心豊かな人づくり」を目標に「生涯を通して学習できる環境づくり」を施策の方針として、生涯学習施設の有効利用と学習機会の充実に努めるとともに、地域住民と一体となった活動を目指します。

### 《目標》

1. ライフステージに応じた学習機会や情報提供を推進するとともに、自主学習支援体制の充実、青少年の健全育成、芸術・文化活動の活性化を図ります。
2. 人権に対する正しい理解と認識を深め、差別や偏見のないおもいやりのある「まち」を目指します。
3. 文化財・埋蔵文化財の保全を図るため、資料収集及び保護・活用を推進します。

### (1) 重点施策の中で、特に重要課題と捉えた施策

- ① 生涯学習人材登録制度の充実と学習要望に対応した各種講座の開催
- ② 文化財・埋蔵文化財の資料収集、保護・活用
- ③ 生涯学習館の有料化及び利便性の向上

### (2) 課題別点検評価

達成状況 AA：達成（予定以上） A：達成（予定通り） B：予定より遅れたが達成 C：概ね達成  
D：予定の半分程度達成 E：ほとんど進まず F：その他

実施状況	達成状況	成果（○）と課題（□）
<b>①生涯学習人材登録制度の充実と学習要望に対応した各種講座の開催</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生涯学習人材登録者の募集を継続し、神奈川県生涯学習情報システムへの登録作業を行うとともに、町ホームページでの情報提供も継続しました。</li> <li>・生涯学習の機会を希望する人にとって活用しやすい台帳の整備を継続するとともに、サロンドカルチャー制度等との整合を図りました。</li> <li>・町民の生涯学習への要望に応えるべく各種講座・教室・講演会の開催を行いました。</li> <li>・翌年度の講座等の企画のため、講座等終了後にアンケート調査を実施しました。</li> <li>・講座等開催回数の増加を図り、あらゆる世代を対象とした講座等を開催しました。</li> </ul>	<b>A</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生涯学習人材登録への申込者の募集を継続し、神奈川県生涯学習情報システム（PLANET かながわ）への登録作業を行い、また町ホームページでの検索コーナーの整備等により、利用しやすい環境の提供ができました。</li> <li>○制度の周知及び利活用を図るため、既存のサロン・ド・カルチャー制度と人材登録制度との連携を実施しました。また既登録者にアンケート調査を行い、町民の学習要望に即した生涯学習講座を開催し、人材登録制度登録者 11 人の活用を図ることができました。</li> <li>○青少年向け講座は、2 講座増設しました。</li> </ul>

		○講座等受講者のアンケート調査を基に受講者ニーズに沿った講座等の内容を企画しました。
<b>② 文化財・埋蔵文化財の資料収集、保護・活用</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>文化財資料等の保存・活用を図るため、蓄積された資料の整理を行いました。</li> <li>資料管理・検索等の用に供するため、資料台帳の整備を行ないました。</li> <li>町指定史跡名勝天然記念物「寶積院のカヤ」の保全について補助金を交付しました。</li> <li>指定文化財の内容変更に伴い、文化財案内看板の更新を行いました。</li> <li>消防本部・消防署・消防団・警察署とともに、六所神社において文化財消防訓練を実施しました。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○緊急雇用創出事業を活用し、文化財等資料整理委託を実施することにより資料整理の促進を図ることができました。</li> <li>○大磯町指定史跡名勝天然記念物「寶積院のカヤ」の保全措置に対して、町指定文化財修理等補助金を交付しました。</li> <li>□「寶積院のカヤ」については、今後の経過状況について、不断の観察をする必要があります。</li> <li>○文化財の周知啓発等の促進を図るため、設置している文化財案内看板の内、六所神社蔵の神像についての内容変更に対応して板面を更新しました。</li> <li>○文化財所有者（六所神社）の協力により文化財防火訓練を実施することができ、近隣住民及び報道機関等多くの見学があり、文化財保護の取組みへの理解を得る機会となりました。</li> </ul>
<b>③ 生涯学習館の有料化及び利便性の向上</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>施設維持管理経費の使用者一部負担を前提に、維持管理経費を基に使用料を算定し、施設の有料化を実施しました。</li> <li>各種修繕を行い、施設の維持管理を図りました。</li> <li>全庁的な施設の有効活用を図るための検討を踏まえ、使用料設定、町内外別料金、減免規定等について検討しました。</li> <li>使用者の情報交換の場の設定を図りました。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○6月から共通使用券による有料化を、町内各施設にあわせて実施しましたが、使用者数等は有料化前とほぼ同数の結果でした。</li> <li>○有料化に伴い、午前・午後・夜間の3ブロックから1時間刻みの使用区分にしたことにより、使用者の利便性の向上が図られました。</li> <li>○排水施設等の修繕を行うことにより、施設の適切な維持管理を図りました。</li> <li>□引き続き施設の使用状況の確認が必要です。</li> <li>○1階ホールに使用者の情報交換の用に供する掲示板を設置しました。</li> </ul>

### (3) 教育委員による評価

#### ① 生涯学習人材登録制度の充実と学習要望に対応した各種講座の開催

評 価	PLANET かながわを活用した人材登録制度の充実と生涯学習の活性化施策については、当初計画に従って積み上げ情報提供していったということで着実に成果をあげたものとする。また、講座参加者等のアンケート調査から意見・要望を把握し事業へフィードバックすることにより、H22年度は熟年層を対象とした新講座を
-----	---

	開設するなど、対象年代ごとに特色のある講座等が開催されたことは評価できる。従ってA評価は妥当である。
改善事項等	各種講座については、常に住民の興味関心、ニーズ等を把握する努力を続けるとともに、アンケート調査の結果を踏まえ、それらを反映した講座の企画・立案をしてほしい。また、町民への更なる周知が必要である。

## ② 文化財・埋蔵文化財の資料収集、保護・活用

評 価	財政状況が厳しい折、国庫補助を利用して町の文化財等の保護・活用のための基礎となる資料の整備ができたこと、予算措置により町指定史跡の保全ができたことなど、着実に整備が進んでいることは評価できる。H22年度においても文化財防火訓練が実施できたこと、また文化財の保護への取組みが地域住民の方々へ理解していただく良い機会となった。従ってA評価は妥当である。
改善事項等	H23年度までの基金であり、次年度はより有効に活用し効果の上がる事業とするために十分検討し、対象候補となる文化財等を選定してほしい。 また、案内看板の更新や補修をこまめに行うことで住民意識も高まり、文化財を大切にしようとする町の姿勢が理解されるのではないかとと思われる。今後とも継続的に行うことが望まれる。さらには保護と併せ、その活用について、より見える形での努力が望まれる。

## ③ 生涯学習館の有料化及び利便性の向上

評 価	生涯学習の拠点施設として、また各学習団体相互の情報交換の場としての生涯学習館を適切に維持管理することは重要であり、厳しい財政状況と受益者負担の観点からも有料化の実施は必要であるが、単なる有料化のみではなく、より便利により良いサービス提供の環境づくりに努めていることは評価できる。また、使用者の情報交換のための掲示板の設置も有益である。従ってA評価が妥当である。
改善事項等	有料化によってその利用者数は有料化前とほぼ同数とあるが、それが本当に町民サービスが確保されたのか、利用者の利用形態に変化があったのか、より利便性の向上が図られたのか、今後も検証していくことが必要である。 また、掲示板に示された内容について使用者の情報交換に留まらず、学習館の広報活動への活用もよいと思われる。

## 4 図書館

### 《基本方針》

図書館は、町民の知る自由の保障及び情報提供活動の向上を図り、町民の知的要求や活動形態の多様化に対応するよう図書館サービスを展開し、「大磯町子ども読書活動推進計画」に基づき、大磯の子どもたちの読書環境の整備に努めます。

### 《目標》

1. 「より便利に、より自由に、より役立つ」図書館を目指し、安全で快適な環境づくりと、人と資料を結び町民の多様なニーズに応えた利用促進を図ります。
2. 「大磯町子ども読書活動推進計画」に基づき、子どもたちがあらゆる機会と場所において、自主的に読書に親しめる環境、親しむ環境の整備に取り組むとともに、教育機関との連携を図ります。
3. 町民との協働による図書館活動の活性化と町民の生涯学習活動の支援を図るとともに、郷土資料館と連携し地域情報の収集に努めます。

### (1) 重点施策の中で、特に重要課題と捉えた施策

- ① 図書館サービス計画の策定と利用サービスの向上
- ② 子ども読書活動推進計画の策定

### (2) 課題別点検評価

達成状況 AA：達成（予定以上） A：達成（予定通り） B：予定より遅れたが達成 C：概ね達成  
D：予定の半分程度達成 E：ほとんど進まず F：その他

実施状況	達成状況	成果（○）と課題（□）
<b>① 図書館サービス計画の策定と利用サービスの向上</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ H22 年度末に予定していた「図書館サービス計画 H23-H27」の策定を翌年度当初に繰り越しました。</li> <li>・ 図書館協議会を3回（H22. 6. 23、H22. 12. 3、H23. 3. 18）開催しました。</li> <li>・ ふるさと雇用再生特別交付金を活用し、H22. 1. 5 から開始した本館窓口等業務委託について、1年経過した H23. 1. 31 から 2. 10 の間にアンケート調査を実施し、分析を行いました。</li> <li>・ 第9回図書館まつりを H22. 11. 21 に、図書館ボランティアなどで構成された実行委員会委員とともに開催しました。</li> <li>・ 生涯学習課と連携し、町の歴史講座「OISO 学び塾」を開催（3回）しました。</li> </ul>	<b>B</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○第2回図書館協議会において、窓口等業務委託を実施している、相模原市相模大野図書館、相模原市橋本図書館を視察し、業務委託の研修を行いました。</li> <li>○アンケート調査及び H22 年度統計を用いて、本館窓口等業務委託の検証を行い、「総合的には委託後の運営は、効率的・効果的な結果が現れている」という総合評価結果を得ました。</li> <li>○郷土資料館との連絡を密にすることで、地域資料情報を共有化することができ、利用者への情報提供に役立ちました。</li> <li>□町の総合計画と時期を合わせるため、年度末の策定を予定していましたが、H22 年度統計の反映や、</li> </ul>

		<p>現計画の総括、教育委員に意見を求める期間を考慮すると、年度末の策定は困難であることから、今後の「図書館サービス計画」の策定期間については、検討を要します。</p> <p>□窓口等の業務委託について、図書館協議会の合意形成及び H23 年度の教育委員会基本方針・図書館の基本方針の重点施策として、教育委員に承認を得ることができましたが、町の単独費用とあたりに、費用対効果を明確にし、事業計画の精査を至急図る必要があります。</p>
<p><b>② 子ども読書活動推進計画の策定</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ H22 年度中の策定を予定していた、「第二次大磯町子ども読書活動推進計画」を、翌年度当初に繰り越しました。</li> <li>・ 小学校 4 年生の学級招待事業（大磯小学校 6 月、国府小学校 11 月）、幼稚園・保育園の年長児の図書館見学事業（H23. 1 月、2 月）、ブックスタート事業（全 6 回）、おはなしと紙芝居等、各事業を実施しました。</li> <li>・ スタンプラリー2010（H22. 4. 24～H23. 3. 31）に、171 名の参加がありました。</li> <li>・ 「おはなしの基礎講座」（全 4 回）を開催し、延べ 48 名の参加がありました。</li> <li>・ 寄贈本の学校提供を行いました。</li> </ul>	<p><b>B</b></p>	<p>○計画に基づいた各事業を円滑に実施しました。</p> <p>○年度当初から色々な事業が計画されており、「第二次大磯町子ども読書活動推進計画」の策定が遅れましたが、各取組みは計画どおり実施することができました。</p> <p>□学校図書館との連携を推進するにあたり、図書館の司書有資格職員を担当として、情報交換や連絡調整を行うための会議を設ける必要があります。</p>

### （3）教育委員による評価

#### ① 図書館サービス計画の策定と利用サービスの向上

<p>評 価</p>	<p>ふるさと雇用再生特別交付金を活用した本館窓口等業務の委託についてアンケート調査、統計データによる検証を行ったが、各項目において業務の効率化が図られサービスの向上となっているとの調査結果が得られたこと、併せて今後の窓口業務委託のあり方検討に着手したこと、また、多様化する利用者ニーズに対応し、子どもたちや町民が読書に親しめるソフト・ハード面での環境整備に努めていることは評価できる。</p> <p>しかし、H22 年度末に予定していた「図書館サービス計画 H23-H27」の策定が遅れてしまったことは残念であった。従って B 評価は妥当である。</p>
<p>改善事項等</p>	<p>H24 年度から窓口等の業務委託は町単独費用となることから、本館・国府分館含めて、その委託方法について一括委託、部分委託、あるいは司書有資格の地域住民活用（臨時雇用）など、あらゆる角度から慎重に検討し、費用対効果明確にすべきである。</p> <p>「図書館サービス計画 H23-27」について、「大磯町立図書館サービス計画</p>



	<p>2008-2010」の総括を行い、その成果・反省に立って次期計画を立案すべきであり、そのために例えば、現計画について第3四半期までの期間での成果・課題の中間分析を行うことにより年間を推計し、これを反映させた次期計画の素案を作成するなど、年度内策定に向けた改善策を講ずることも検討すべきである。</p>
--	---

## ② 子ども読書活動推進計画の策定

<p>評 価</p>	<p>ブックスタート、幼稚園・保育園園児の図書館見学、小学校児童の学級招待など発達段階に合わせた各事業を実施することで読書の楽しみや大切さを子どもたちに伝えることに努めていることは評価できる。</p> <p>ただ、図書館と郷土資料館との連携方法についての検討状況を記述すべきである。</p> <p>従ってB評価は妥当である。</p>
<p>改善事項等</p>	<p>計画どおり策定することを阻害した要件を検証し、今後は計画どおり実施する必要がある。</p> <p>学校図書館との連携について、定期的に幼・小・中に特設コーナーを設け、図書の貸し出しを行うことなどが考えられる。</p>

## 5 郷土資料館

### 《基本方針》

館のテーマである「湘南の丘陵と海」に基づき、資料の収集・保管、調査研究、展示、教育普及活動を行うとともに、地域住民と一体となった活動を目指します。

### 《目標》

博物館サービスを向上させ、地域住民にとって魅力があり、利用しやすい施設運営を目指します。

### (1) 重点施策の中で、特に重要課題と捉えた施策

- ①郷土資料館リニューアルプランの推進
- ②文化財資料等の保存・活用
- ③企画展5回の開催

### (2) 課題別点検評価

達成状況 AA：達成（予定以上） A：達成（予定通り） B：予定より遅れたが達成 C：概ね達成  
D：予定の半分程度達成 E：ほとんど進まず F：その他

実施状況	達成状況	成果（○）と課題（□）
<b>①郷土資料館リニューアルプランの推進</b> ・郷土資料館展示リニューアル基本設計を委託し、郷土資料館運営委員会において検討を重ねながら報告書をまとめました。	<b>B</b>	○館全体のリニューアルを考えるという認識のもと、大磯町や城山公園の全体像をとらえつつ、資料館の抱える課題や今後の運営方針、展示や建築的側面に至るまでの検討と提案をまとめることができました。 □委託発注時期が当初予定より遅れたため、全体としてタイトなスケジュールとなりました。 □平成23年度に実施設計を行なう予定でしたが、旧吉田邸の再建状況を踏まえつつ、さらに収蔵資料や資料データの整理を進めることを優先させるという政策的な判断が下されました。
<b>②文化財資料等の保存・活用</b> ・資料館で受託中の大磯町指定有形文化財である木造神像（11 軀）について、毎年1 軀ずつ保存処理を実施しています。22年度においては、6 軀めとなる男神立像の保存処理を委託実施しました。	<b>A</b>	○保存処理の実施により、今後の展示・教育普及活動等にも活用可能な状態となりました。 □今後は、さらに保存状態の悪い個体、あるいは大型の個体となるため、これまでよりも費用が嵩むことが考えられます。
<b>③企画展5回の開催</b> ・通常の企画展のほか、学習参考資料展や記念事業展を冠に付した展示を開催しました。	<b>A</b>	○学習参考資料展においては、町民からボランティア調査員を募集し、調査によって得られたデータ

<p>(①学習参考資料展「みんなで調べた今年の大磯町の春花」②「元祖海水浴場大磯—東京中のしゃれた奴らがやってきた!—」③「受け継がれる祈りのかたち—六所神社神像特別公開—」④城山公園開園 20 周年「三井高棟と吉田茂—城山荘と如庵、七賢堂の記憶」⑤アオバト町の鳥制定記念「大磯町の海辺の自然」)</p> <p>・企画展の開催にあわせ、チラシやホームページで周知するとともに、2回の企画展で展示図録を刊行しました。あわせて関連事業として、講演会、民俗芸能鑑賞会、見学ツアーなどを開催しました。</p>	<p>を展示に直接反映する住民参加型の展示手法を試みるなど概ね好評でした。</p> <p>○城山公園開園 20 周年やアオバト町の鳥制定記念など、関連事業に対して、柔軟かつ迅速に展示へ反映することができました。</p> <p>○さまざまな組織や機関から後援や協力を得ることができました。</p> <p>□年間企画展数が多いことから職員一人に対する負担が大きく、年間を通して展示準備に追われています。そのため、展示企画に際して十分な研究や準備期間が不足しています。</p>
--	---

### (3) 教育委員による評価

#### ① 郷土資料館リニューアルプランの推進

<p>評 価</p>	<p>町各施設と郷土資料館それぞれの機能と位置づけについて、城山公園を含めた全体像と関連付けながら整理し、そこから郷土資料館単体として建物本体、展示内容等様々な諸源についてあるべき姿を検討し、魅力ある郷土資料館像の提言を行なったことは評価する。ただ、年度がずれ込んだ経緯について考える必要がある。</p> <p>また、旧吉田邸再建を第一義とする町長、町部局の理解が得られず予算措置ができず、次年度に向けた次の行動ができなかったことは残念である。従ってB評価は妥当である。</p>
<p>改善事項等</p>	<p>本リニューアル事業は、郷土資料館が魅力ある郷土資料館として情報発信するためには是非必要であり、また、大磯町がキャッチフレーズとする観光立町に大きく貢献するものでもあることから、町長、町部局の理解が得られるよう努力するとともに、現況において図書館等との連携を強化し実績作りをしてほしい。</p>

#### ② 文化財資料等の保存・活用

<p>評 価</p>	<p>町の財産である文化財等の保存活動は地道な活動であるが、今後の展示や研究調査などその利活用に不可欠な活動である。毎年、1 軀ずつ保存処理され計画的な保存活用が着実に行われている。必要な予算は確保しつつ今後も計画的に木造神像の保存処理活動を実施してほしい。従ってA評価は妥当である。</p>
<p>改善事項等</p>	<p>費用の捻出は不安であるが、優先的に文化財の保存に努める必要がある。今後、保存対象となる文化財の木造神像は、その保存状態も悪く所要経費も増加傾向にある。予算と他の施策を睨みながら計画的に進めて行くべきである。</p> <p>また、資料館に保管されている資料の保存、展示についても積極的に行うことが大切である。</p>

### ③ 企画展5回の開催

<p>評 価</p>	<p>年5回の企画展開催は利用する側としては大いに喜ぶべき充実感がある。H22年度はバラエティーに富み内容も充実していた。また、企画展と関連させた事業の開催は評価できる。</p> <p>郷土資料館は地域住民や利用者とともに地域研究など「協働」による活動を目指しており、その一環として住民参加型による展示を行なうなど新たな試みが評価できる。大磯の歴史、文化、自然など色々なジャンルから幅広く題材を取りあげ町内外に広く大磯町を知らしめることができた。また、H21年度実施した伊藤博文記念事業で培ったノウハウが、H22年度事業に生かされていると考える。この点からも評価できる。従ってA評価は妥当だと考える。</p>
<p>改善事項等</p>	<p>企画内容が参観者の数を左右するので、研究・準備には大変な労力が必要とは思われるが、魅力ある企画を期待する。</p> <p>企画展数が多いことは、活動そのものが活性化していると言える。人的リソースが限られている中では、職員一人一人にかかる負担が大きくなることは理解できる。展示準備に追われ、十分な研究や準備期間が取れないことも分かるが、もう一段上を目指し今の業務の点検、見直しを行うなどメリハリの利いた活動を期待する。</p>

## Ⅲ 資料編

### 1 関係法令

#### (1) 地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

**第 27 条** 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第 1 項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第 3 項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

#### (2) 地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律について（通知）（抜粋）

（19 文科初第 535 号 平成 19 年 7 月 31 日 文部科学事務次官通知）

##### 第一 改正法の概要

###### 1 教育委員会の責任体制の明確化

###### (3) 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価

教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表しなければならないこととしたこと。点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有するものの知見の活用を図ることとしたこと。（法第 27 条）

##### 第二 留意事項

###### 1 教育委員会の責任体制の明確化

①今回の改正は、教育委員会がその権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出し、公表することにより、効果的な教育行政の推進に資するとともに、住民への説明責任を果たしていく趣旨から行うものであること。

②現在、すでに各教育委員会において、教育に関する事務の管理及び執行の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果を議会に報告するなどの取り組みを行っている場合は、その手法を活用しつつ、適切に対応すること。

③点検及び評価を行う際、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図ることについては、点検及び評価の客観性を確保するためのものであることを踏まえ、例えば、点検及び評価の方法や結果について学識経験者からの意見を聴取する機会を設けるなど、各教育委員会の判断で適切に対応すること。

### 2 「教育委員会定例会議事録」掲載ホームページアドレス

<http://www.town.oiso.kanagawa.jp/kyouiku/teireikai/teireikai.html>

### 3 平成 22 年度教育委員会基本方針

平成 22 年 3 月 24 日大磯町教育委員会第 12 回定例会で決定

教育三法の改正に伴い、各自治体では、新たな教育に向けた取り組みが益々求められるようになりました。大磯町教育委員会としても、教育委員会の活動に対し、自ら点検・評価を行うなど、その責任体制の明確化や体制の充実を図るとともに、教育行政における地方分権の推進に努めてまいりました。

大磯町では、平成 21 年度に、簡素かつ効率的な行政組織を構築するための機構改革が行われ、改革重点事項の 1 つとして、スポーツ振興に関する事務を町部局へ移し、代わりに子育て支援に関する事務を受け、子育てから義務教育行政を一貫して教育委員会で実施することとなりました。

大磯町教育委員会は、これらの法律改正と町の機構改革の趣旨を十分踏まえ、学校関係者、保護者及び地域住民との連携を深め、様々な教育課題や子育て支援に関する課題に取り組み、教育委員会活動のさらなる活性化に向け努力していきます。

#### 《義務教育の基本方針》

現行学習指導要領の「生きる力」の理念や「大磯町第四次総合計画」の「心豊かな人を育てるまちづくり」の趣旨を踏まえる中で、新学習指導要領への移行期間であることを考慮し、その完全実施に向け、確かな学力・豊かな心・健やかな体の育成、そして、自己の生き方を見つめ、新しい時代を自ら切り拓くことのできる人づくり等、信頼される学校づくりの実現を目指します。

#### 〔目標〕

1. 各学校では、創意工夫と新学習指導要領への移行を考慮した教育課程を編成し、特色ある学校づくりに努めるとともに、人間として心豊かでたくましい児童・生徒の育成を目指します。
2. 保護者や地域の方々と諸問題を共有しつつ協力体制を築き、これからの時代の要請に見合う大磯町にふさわしい教育活動の展開を図ります。
3. 「教職員としての使命の自覚」「教職員としての力量」を高めるために、教育研究所機能も活用し、研究・研修の機会や場を拡充します。さらに、異校種間連携や他市町との広域的人事交流も推進します。

#### 〔重点施策〕

1. 小学校・中学校
  - (1) 各学校において、ティームティーチング(\*)や少人数指導、目標に準拠した評価等、指導法の工夫改善の研究に努め、基礎的・基本的な学習内容の確実な定着と活用する力の育成に努めます。
  - (2) 小1プロブレム(\*)の解消と中学校における生徒指導及び進路指導等の課題を解消するため、小学校低学年及び中学校において 35 人学級編制を推進します。
  - (3) 児童生徒の連続的な学びと成長を図るため、小・中学校教員の授業の相互乗り入れや情報交換会の充実により小・中連携を進めます。
  - (4) 教職員の専門性や指導力向上につながる研修制度の整備と充実を図ります。特に、電子黒板等 ICT(\*)関連機器の積極的な活用について研修を深めます。
  - (5) 大磯町で策定した「大磯町食育推進計画」を基に、各学校における「食育」を推進するとともに

に、配置された栄養教諭を中心に、食に関する指導を積極的に実践します。

- (6) 学習指導要領の改訂に伴う移行措置の趣旨を踏まえ、各学校で編成された教育課程の実施を支援します。
- (7) 支援教育の推進を図るため、教育支援員を配置するとともに、相談支援チーム体制を充実させます。また、いじめ・不登校をはじめとする課題に対しても、相談支援チーム機能を活用し、教育相談及び児童生徒指導の充実を図ります。
- (8) 開かれた学校づくりを進めるため、学校とPTA・地域・関係諸機関との協議・連携を図り、地域の教育力を活かす学習活動を行うとともに、学校内外における防犯・安全体制の一層の充実に努めます。
- (9) 学校水泳の実施場所や方法等について、両小・中学校が同じ条件で実施できるように配慮します。
- (10) 国府中学校のグランド改修及び国府小学校敷地内へのプール整備に向け、実施設計を行います。

## 2. 教育研究所

- (1) 教育研究の拠点となるよう書籍類、研究資料等の収集・整理及び各種広報活動を推進します。
- (2) 教職員の自主的な研修ならびに調査・研究の充実を図るとともに、「大磯の自然ガイドブック(磯の生物編・仮称)」の作成に向け、準備を進めます。
- (3) 新学習指導要領に即した「社会科副読本」の改訂に向けた調査及び資料収集等準備を進めます。
- (4) 教職員を対象に事例研究や研修会を実施し、児童生徒指導上の諸問題の解決や教職員の資質向上を図ります。
- (5) 教育研究所に配置しているスクールアドバイザー(\*)を中心に、心理的・情緒的な問題を抱えている子ども達に対する援助や指導を行い、その保護者や関係教職員に対する教育相談等を行います。

## 《子育て支援の基本方針》

「安心して子どもを産み、育てられる子育て環境づくりの促進」、「家庭、地域、行政が連携し子どもを育てていく体制づくりの促進」、「多様な保育サービスなど子育て支援機能の充実」を基本方針とし、子ども達一人ひとりにはもとより、その保護者に対する子育て支援の充実を目指します。

### 〔目標〕

1. 幼稚園では、幼稚園教育要領の趣旨を踏まえ、保護者や地域の方々との協力体制を築く中で、心豊かでたくましい園児の育成を目指します。
2. 保育園では、保育所保育指針の趣旨を踏まえ、子どもの年齢と成長に合わせた心豊かな子どもの育成を目指すとともに、適切な保育の実施を行います。
3. 幼稚園と保育園の交流を深め、就学前幼児の育成を見据えた中で、幼保連携を推進します。
4. 子育て支援サービスの充実を図り、身近な場所で子育て支援を受けられるまちをめざします。また、家庭や地域の教育力を高め、子どもたちがいきいきと成長できるまちをめざします。

### 〔重点施策〕

1. 町立幼稚園では、教育支援員の配置や AET(\*)の派遣とともに、預かり保育を実施することで子育て支援を推進します。
2. 町立保育園では、引き続き、特別に支援が必要な園児への保育を実施するとともに、延長保育・一時保育・休日保育等の保育サービスの充実に努めます。
3. 大磯町で策定した「大磯町食育推進計画」を基に、町立幼稚園・保育園における「食育」を推進するとともに、町立保育園では、引き続き3歳児以上の完全給食を実施します。
4. 町立幼稚園・保育園内外の防犯・安全体制づくりを推進します。
5. 空き店舗を活用した民間保育園の分園等、保育園における待機児童対策を検討・実施します。
6. 町立・私立幼稚園及び保育園から小学校へ円滑に移行できるように、幼稚園及び保育園が小学校と協力し、各種行事を共同で開催するなどにより連携を図ります。
7. 放課後子どもプランの実現に向け、「放課後子ども教室推進事業」と「放課後児童健全育成事業」を一体的あるいは連携して実施できるよう研究を進めます。
8. 横溝千鶴子記念子育て支援総合センターを5月に開所し、相談支援・つどいの広場機能及び子育て支援情報の提供を充実させるとともにファミリーサポートセンター事業の実施により、子育て支援体制の更なる強化を図ります。
9. 平成24年4月の民間幼稚園開園を目指し、選考等について事務を進めます。
10. 子ども手当の着実な支給を行います。

### 〈生涯学習の基本方針〉

「思いやりのある心豊かな人づくり」を目標に「生涯を通して学習できる環境づくり」を施策の方針として、生涯学習施設の有効利用と学習機会の充実に努めるとともに、地域住民と一体となった活動を目指します。

### 〔目標〕

1. ライフステージに応じた学習機会や情報提供を推進するとともに、自主学習支援体制の充実、青少年の健全育成、芸術・文化活動の活性化を図ります。
2. 人権に対する正しい理解と認識を深め、差別や偏見のないおもいやりのある「まち」を目指します。
3. 文化財・埋蔵文化財の保全を図るため、資料収集及び保護・活用を推進します。

### 〔重点施策〕

1. 町民が自由に学習機会を選択し、学ぶことができる生涯学習の一助として導入した、大磯町生涯学習人材登録制度の充実に努めるとともに、登録者を講師とした講座を開催し、制度の活用に努めます。
2. 生涯学習館については、生涯学習活動の拠点施設として有効利用を図るとともに、各学習団体相互の情報交換の場となるよう検討を進めます。
3. 熟年層を対象とした「OISO 学び塾」など、対象年代ごとに特色のある生涯学習講座を開催します。



4. 県生涯学習情報システム「PLANET かながわ」などを活用した生涯学習に関する情報提供に努めます。
5. 関係団体と協力して、青少年の健全育成に係る事業の充実に努めます。
6. 芸術・文化の活性化を図るため、おおいそ文化祭やおおいそ美術展を、公共施設等を利用しながら引き続き開催します。
7. 人権に対する正しい理解と認識を深めるため、人権教育講演会を開催し、人権啓発活動を推進します。
8. 町内に所在する歴史的な建造物保存のため、国登録有形文化財建造物又は町指定有形文化財となりえる候補について、各種調査等に併行して情報の収集に努めます。
9. 文化財資料等の保存・活用を図るため、資料等整理委託などにより蓄積された資料の整理を行なうとともに、貴重な文化財の保存に向けた取り組みを行います。

### 《図書館の基本方針》

図書館は、町民の知る自由の保障及び情報提供活動の向上を図り、町民の知的要求や活動形態の多様化に対応するよう図書館サービスを展開し、また、「大磯町子ども読書活動推進計画」に基づく、大磯の子どもたちの読書環境の整備に努めます。

#### [目標]

1. 「より便利に、より自由に、より役立つ」図書館を目指し、安全で快適な環境づくりと、人と資料を結び町民の多様なニーズに応えた利用促進を図ります。
2. 「大磯町子ども読書活動推進計画」に基づき、子どもたちがあらゆる機会と場所において、自主的に読書に親しめる環境、親しむ環境の整備に取り組むとともに、教育機関との連携を図ります。
3. 町民との協働による図書館活動の活性化と町民の生涯学習活動の支援を図るとともに、郷土資料館と連携し地域情報の収集に努めます。

#### [重点施策]

1. 「大磯町立図書館サービス計画 2008-2010」の次期計画を策定し、長期的な図書館サービスの指針とします。
2. 利用者にとって安全で快適な環境づくりのため、「大磯町立図書館修繕計画」の再検討を行います。
3. リニューアルした図書館ホームページを活用した情報提供を推進するとともに、施設の利用について周知を図り利用を促進します。
4. 「大磯町子ども読書活動推進計画」に基づく取組を検証し、子どもの読書活動に関する新たな計画を策定します。
5. 児童サービスのボランティア講座を開催し、おはなしボランティアの養成を図るとともに、児童講座の開催、ブックスタート、ブックトーク、学校・幼稚園・保育園等への学習支援など子ども読書活動を推進します。
6. 地域資料の有効活用を図るため、図書館データベースと郷土資料館所蔵資料の連携手法を検討します。

## 《郷土資料館の基本方針》

館のテーマである「湘南の丘陵と海」に基づき、資料の収集・保管、調査研究、展示、教育普及活動を行うとともに、地域住民と一体となった活動を目指します。

### 〔目標〕

博物館サービスを向上させ、地域住民にとって魅力があり、利用しやすい施設運営を目指します。

### 〔重点施策〕

1. 資料の保存、活用を図る一環として、資料のデータベース化を進めるとともに、引き続き木造神像の保存処理を行います。
2. ホームページを活用し、館の活動内容や地域資料の情報提供を充実させるとともに、ワークショップの開催を通して利用者との協働を進めます。
3. 常設展示では取り扱うことのできない分野を補うため、企画展などの開催を行います。
4. 常設展示室のリニューアル、老朽化した施設の計画的な改修や運営のあり方など館の整備運営基本方針をまとめ、基本設計業務の委託を行ないます。

平成23年度（平成22年度対象）

教育委員会点検・評価報告書

発行者 大磯町教育委員会

編集者 子ども育成課

〒255-8555 大磯町東小磯183

☎ : 0463-61-4100 / FAX : 0463-61-1991

ホームページアドレス

<http://www.town.oiso.kanagawa.jp/kyouiku/kyouiku.html>

発行 平成23年9月